

国立国語研究所学術情報リポジトリ

秋田県男鹿市脇本大倉方言

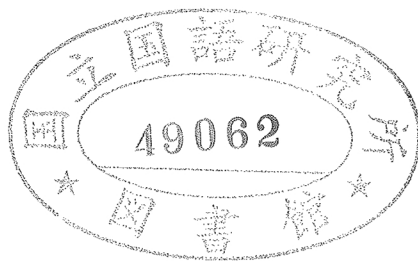
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003026

方言録音資料シリーズー6

秋田県男鹿市脇本大倉方言

北 条 忠 雄 編

1 9 6 8



このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」(代表者大石初太郎)の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」(国立国語研究所 話しことば研究室編)を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、秋田大学教授 北条忠雄 が担当した。

国立国語研究所



1001877792

も く じ

収録地点とその方言について	2
表記について	3
本 文	
(1) <なまはげ>の話	5
(2) 鳥コの話	9
(3) 訪問の対話	12
(4) <昔は苦勞した>という話コ	13
(5) <謎>よもやま話	21
(6) 弁慶の話	27
(7) 男鹿地震の話(その1)	31
(8) 男鹿地震の話(その2)	37
(9) お昼の対話	41
(10) おじいさんとおばあさんの喉 ^{のど} コ	43
(11) 餅のかぞえ歌	44
(12) 若い時の話ちよっぴり —夫婦仲よくかせいだこと—	45
(13) やづのめ —一つの花に実が八つなる梅の話コ—	46
(14) 繁次郎という男の話 四つ	
① 鯨 ^{かど} は川に	48
② 紅 ^{べに} 餅 ^{もち}	49
③ 山さ行ってマギきり	51
④ 若 ^{わが} 勢 ^{じよ} ぶり	52
(15) 昔 話	
① 松かさ三升で炊事 —嫁の資格試験—	54
② <やぐわん>と<めくされ>それに<じらみたがり>の話	57
③ 狐とむじなとを化かした話	60
④ 無実の罪に泣く如来さま	63
⑤ ダンゴがドンになった話コ —コブのおかげでやっとながダンゴに—	66
⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ	68
⑦ 餅粉の整鼻術 —昔の整形外科—	70
⑧ 米ぶくと粟ぶく	72

収録地点とその方言について

1. 地点名： 秋田県男鹿市脇本大倉

2 収録地点の概観

船川線脇本駅から下車左折して4分ほどにて更に左折、船川線の踏切を越えて道路を北上すれば左手に見える（田圃をこえて）のが大倉である。さらに15分ほど北上、左折してこの部落に入る。北西に寒風山を望み頂上の展望台とさだかにみとめ得る、寒風山麓の小農村である。かつて寒風山は樹木も鬱蒼と繁茂していた由で村人は田におり山におりて働くのが日常の仕事であった。現在は農業がもっぱらである。（山に働きに行くのもオリルという）

3. 収録した方言の特色

録音したものの中で特に留意したい現象は、

1. 推量に由利方言に見えるデロが見えることである。

ドゴサ ツレデ イゲバ イインデロ 【10】

但し由利の如くに広くあらわれているということはずいぶん見えていない。

2. 由利や平鹿雄勝を除いて意志法は、秋田方言では、終止形を使用するのが普通であるのにここではヤロガ（しょうか） コロガ（きょうか）などの用法が見えている。イマダケァ シノダケァ タエヘンダデァ 【4】イマダケァ＝イマダバ（ケァ＝バ）シノダケァは秋田方言では死ヌゴッタバが普通である。シノダケァは＜死のうだば＞である。北越後でいうシノンダラに当る。
3. ガエ [gae] に、全く疑問の意味がない単なる＜詠歌＞としか考えられないものが見えている。
4. 秋田全般にヤルとケルとをすべてケルで表現する。ところが南秋田郡ではダスは相手にケルことでありケルは自分へ（くれる）ケルことである。普通のダスはどういうかとなるとこれはトダスという。（男鹿地蔵のところに見える）

4. 地点選定の理由

特別の意図はなかったわけであるが、ただ秋田市周辺或はそれに近い圏内が案外おろそかにされ又調査者自身としてもその傾向があったため、検討しておく必要があると考えたこと、同時にこの脇本あたりは男鹿半島と南秋田郡との境目にあたり、何か特異な現象もと考えられたこともあった。結果は果然注目すべく、向後さらなる調査と討究とを要することを確認した。（上記に一部摘録）

表 記 に つ い て

〔指定の字母以外に使用した字母, および使用した補助記号〕

特になし

表記は大体<1966-10-20>の<方言の表記について>に見られる表記法に従った。それと異なる点は大体次の通りである。

- (1) <イ>と<エ>とは一応同じ phoneme と判断され, かつ表記の便も考慮して〔e〕とした。〔e〕は〔i〕〔u〕〔e〕の間あたりに位する母韻と考えての処置である。
- (2) <シ>と<ス> <チ>と<ス>に限り中舌母韻記号を使用した。例えば〔sɨ〕〔sɯ〕, 〔cɨ〕〔cɯ〕 但し両者とも一つに統一せず<シ>に近く聞えるものを〔sɨ〕<ス>に近く聞えるものを〔sɯ〕とした。他のイ列 ウ列には中舌母韻の記号は用いていない。
- (3) カ行タ行の語中有声化は一般に補助記号〔∨〕〔↓〕を使用しなかった。一々濁音に表記することとした。というのは〔∨〕で終始すると, 濁音でいわれたのに〔∨〕を入れ忘れたのではないかと心配されるからである。但し少数〔∨〕を用いた。
- (4) 〔k¹ɛ̃〕〔k²ɛ̃〕〔k³ɛ̃〕 一応この三者を区別したが, 2と3と境目あたりはどちらにしたとしても差支えない。
- (5) 共通語訳はその意味を, 解説を俟たずに把握しやすくするために, 意識して当用漢字以外をも使用してある。

秋田方言の録音

1967・2・26

秋田県男鹿市脇本大倉

昭和42年2月26日 ^{あきたけんおがしわきほんおくら}秋田県男鹿市脇本大倉で録音したものです。

脇本はもと南秋田郡に属し、秋田から船川にいたる船川線の船川へあと二つ目というところにこの脇本の駅があります。秋田市から脇本駅まで鉄道の距離で、31.9キロ(メートル)あり、駅から大倉(被調査者宅)まで徒歩約25分です。

取材録音の場所は、脇本大倉の吉田運蔵さんのお宅で、登場するかたがたは、おじいさんの吉田^(夫)運蔵さん84才とそのおばあさん吉田^(妻)ナツさん77才、それに83才の、吉田さん宅から近所へ嫁入りした安藤リワさんです。

語り手の中心となっているのは吉田ナツさんで聞き手は(秋田)県立男鹿高等学校の菊地教諭とわたくし北条です。

秋田市も、この脇本のあたりも(珍しく)もう雪はすっかり消えてよくはれたうらかな日和でした。

(1) 《なまはげ》の話

録音日時 1967年 2月 26日
 (同 9月 3日 臨地検討)
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉^{おがしわかもとおおくら}
 吉田運蔵 氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治 22年生	農業	脇本 だけ
R	安藤 リワ	〃	〃 17年生	〃	〃

解説: 男鹿半島の、今では広く宣伝されている、〈なまはげ〉[namahage]の行事を話し合っている。昔の〈なまはげ〉を回想して今のそれと比較して、昔のは[ag-wdæ]で [okkanegatta]が、今のはそうでなく、それに餅や酒などよりもむしろ銭[dgen+]を欲しがっているなど話して、御代も変れば〈なまはげ〉も変るもんだとやや嘆息している風情。

N namahāpe-daba hontone u-u-u-qte anoadari a(ra)-
 ナマハゲは、 ほんとに ウウウって あのあたり
 (おそろしくて)
 geba ora emademo daqkirado omou-dena, sono
 歩くと 今でも ダッキラと 思うよな、 すぐその
 (ドキッ)
 adarisa kitaga-do omote.
 あたりへ 来たかと 思っ。

R ore-no masako-gada daqte emademo oqkanæ
 うちの 正子など だって、 今でも こわい
 恐
 oqkanæqte judomo, un kono ojanaqte-gara
 恐いと いうけれど うん 子供の 親になってから
 sje-ba namahāpe oqkanæqte kagureru hito
 それなら ナマハゲ こわいといって 隠れる 人
 dogo-ni eruqte.
 どこに いるって。

N son-de næ.
そうでない。

R un ↗
うん ↗ (ケゲンな面持) ↗上昇調
怪訝

N sonde næ, ore-no kodoragada-daqte, ano nan-
そうでない。 オレの家の 子供たちだって, あの なん
(次のコトバを何と言い

damoto, konda kōdo kusira kagurenæ-de ere-
だもの, こんどは こんどこそ 隠れないで いる
でしたらよいかちょっとよむときのコトバ)

joqte juęba konda-ha kagurenædæ-nanka eqte,
よって いえば こんどは 隠れないよなんか 言って,

Ndataqte ke-ba jaqpari oqkanęgaru-mono-na.
それでも, (ナマゲが) やっぱり 怖がるものなあ。
くれば

R 笑

N ore-no masajugi-daqte, sje-ba āndano kōnda-
うちの 正之だって, そんなら ああだの こうだ

no ęwarerujeri ora ha hajęgu kagureru-dęqte,
の 言われるより オラァ 早く 隠れるよと言って,
(俺)

(不分明), kagureda monda. sitaba, kondo jaq-
…………… 隠れた もんだ。 そしたら, こんど やっ

pari masajugi edaga, masajugi edaga, benkjo
ぱり ナマゲ「正之 いるか, 正之 いるか, 勉強

suruga, sanega, (笑) konda sogora-adari
するか, しないか」 (といわれると こんどは そこらあたり
こわがって)

hasjede araqte nānmo kānmo narane-mononaja.
走って あるいて どうも ならないものねえ。

R ore-no odo-daqtemo, ciqcjæ dogi, ano aedaq-
うちの 親仁だって, 小さい 時, あの あれだっ
(Rの息子)

tadæ, ano zīnzo-ni kagaqte nede-aqte-mono.
たけ, あの 腎臓(病)に かかって 寝て おったもの。

N N · N ·
んん んん

R sɪtaba kɔndɔ nedede, namahãɸe kitamama-dja
したら こんど 寝ていて ナマハゲ 着たままでは

udadeante gane

むさぐるしいので
~アンテガネ は理由表現

N hɔntone so· ju· monde aqta.
ほんとに そう いう もんで あった。

R a· ja· sosite agudæ næntegane gomen site
うん、 そうだ。 そして、 おとなしく するから 御免して

kereqte.

くれとって。

N sjeba kɔndɔ gomen site kereqte wagino mono-
すると、 こんど 御免 して くださいと言って、 傍の 人

gada eqsjokenme fuqpate ara qte < R sage
たちが、 一所懸命 引っ張って 歩いて < 酒

nomasjede > sage nomasjedena < R moçi dasi-
飲ませて > 酒を 飲ませてねえ < 餅を 出し

te >
て >

N namahãɸe dogo-gara kitabajaqteba oedara-no
ナマハゲよ、 どこから 来たかというと 大平の

sankici-da. kada-no sũpa wadaqte jaqtoga
三吉だ、 湯の 氷を 渡って やっとか

kitaqtena.

来たと言ってね。

R ndante

そうだ。

N oedara-no sankicidanoqte kigane (anda).
大平の 三吉だなどって きかないもんだ。

R (何か低声でつぶやく)

N ema-no namahãɸe-daba agudæ-ne.
今の ナマハゲは おとなしい。

R u·N
うん

N nanmo oqkanægunaē, sosite sjeba futogæri-jori
少しも 恐ろしくない, そして すると 一遍しか

konæ monda mono.
来ない もんだ もの。

R ndana.
そうだ。

N modo migumi kitajaçu sjeba,
以前は 三組 来たのに, すると,

R migumi futogæri-jori konæante kifumo futu-
三組 一遍しか 来ないから 寄付も 一遍

gæri-buri oriæ-no uçt̃ dasitejara.
ぶん オレの うちが 寄付したよ。

N a·e māda māda çideqko dasita. moçt̃-daba
うん まだ まだ 祝袋 出した。 餅は

dasite janne.
出して やらない。

R moçt̃ eraneqte ju·mono, sjeba, kane-bari
餅は いらないと いう もの, すると, 金ばかり

hosigaqte nanto
ほしがって 何と

N ema mijo kawaqte koeba namahāge-made kawaq-
今, 時世が 変って くと ナマハゲまで 変っ

te,
て,

R ndaja.
そうだ。

N kondo, futagæri migæriæarugu jaçu kondo fu-
こんど, 二遍 三遍と 歩くのを, こんど, 一

togæri-ni siru monda-mono.
遍に する もんだもの。

N
R Nda
そうだ。

N ga^N-no e^Nda(mō)da-ba jaqpa modo-daba kitata-
雁の ようなものは やっぱり 以前は 来たけ
taqte, konogoro-daba ga^N-mo ko-nægunaè?
れど このころは 雁も 来ないではない?

R Nda Nda.
そうだ、そうだ。

H fuguro-nado orimasuka.
フクロなど おりますか。

R haè fuguro-daba emasu.
はい、 フクロは います。

N Nda.
そうだ。(Rの<はい、フクロはいます>に相槌を打った)

H mimidzugu-wa?
ミミズクは?

N mimidzugu-qte jadzu-sjæ fuguro-no koqte
ミミズクと いうのは フクロウの ことでは
negæ.
ないかね。

S cigau.
違う(小さい声)。
低い

N so·ga, cigau-gaè.
そうか、 ちがうかね。

S fuguro-no do-sa mimi cuderu. (このあたりHへの応答でなく
(ミミズクは)フクロの 所へ 耳が 付いている。お互の私語的なもののため低
声ではっきり聞き取りがたいものもあるが大体こんなところであろう。)

N hontone-ga.
そうか。

R daqte, fugurogu-daba negoqko-no cæraqko midæ^N-
でも フログ(方言)は 猫の 顔 みたい

da j adzɯ-de-ne .

なものでない?
(急声)

N mimi qko cɯde-ga .
耳 付いてか。

R uN .
うん(そうだ)

N daqte sore-sje mimidzugɯ-da ko(q)te, sɪtara-
だって それ みみづくだ ことよ, したらよ

ʃæ. ora fugurogu 'ho:sen'qte naguandaba ki:-
オラ(俺) フグログの ホーセンとって 鳴くのなら 聞
(<耳がついていたら>の気持)。

deru taqte-na .
いている けれどなあ。

R negoqko-do hitocɯ-da-goqta .
猫と (まるで)おなじだ。

N 'ho:sen'qte juɛba sora egu narusi, 'ho:ho'qte
ホーセンって いえば 天気が よく なるし, ホーホーって

juɛba ame furuqte naja .
いえば 雨が 降るって いうな。

R uN .
うん(そうだ)。

N so:ju-de næ. 'noricɯke ho:ho'te-ba ame furu-q-
そういうでない? ノリツケ。 ホーホーっていえば 雨が 降るっ

te ju-sɪ, 'noricɯke ho:sje'qteba sora egu
て いうし, ノリツケ ホーシェっていえば 天気が よく

naruqte (笑声)。
なるって……。

【3】 訪 問 の 対 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生 年) (職業) (居 住 歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ ♪ ♪ 17年生 ♪ ♪

解説： 晩，NがRを訪問。話ははずまず簡単な内容で終わってしまっている。

N ba·ba edaes^wka.
婆！ いたかね。

R ha·e.
はい(いるよ)

N simaqtaga-ha.
(ごはん) 終わったかね。

R a.
はい。

N oedaqke mada (eN) waqko-mo arawanedomo omæ-
オレなら まだ お碗も 洗わないけれど お前

sa as^wni kitæ.
のところへ 遊びに 来たよ。

R jogu kita-nesi madz^w agaqte kunansje(qtejuq-
よく 来たね まず 上って ください(ってこんな風に言

tegæ).
います。

N un omæ-no agacjan mada oqkigu naqtajo.
うん お前の 赤ちゃん また 大きく なったね。

R kono-kræ naqta(j)e, na·Nto agudæ-de nanmo kan-
このくらいに なったよ。 なんと わんはくて どうも

mo narane.
ならない。

N nda. haqte arugu kode-ha.
そうだ。 這って 歩く こったろうね。

R n· aNde arugu-ha.
ン (這わないで) 歩いて(立って)歩くよ。

N omæ-no ka·sanmo jama-sa eqta-gæ.
お前の 母さんかゝも 山へ 行ったかね。

R egane.
行かない。

N ũ^N e·na.
フウン いいなあ。

【4】 〈昔は苦勞した〉という話コ

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ ♪ ♪ 17年生 ♪ ♪

解説：二人の老婆がしみじみと語り合っている。昔と今とをくらべ昔の農業の容易でなかったことが、今の状態とひきくらべられて、具体的に語られていて、それに昔のシツケのきびしさと今の安易さあるいは放縦さというかそういうものにも言い及んでいて、まことに胸を打つものがある。さらに特筆したいのは、この苦勞して来た老婆が働けなくなった今いかにも生きていることがお笑止だという気持で生きていることである。この対話は老婆二人が低い声で話しあいはじめ

たのを——老婆たちはこんなのは録音されていないと考えていたらしい——録音したもので真実の胸にあるものを吐露した対話である。

[いいなおして]

R na:nto jppari wagæ mono daba wagækyte sjeba
 なんと やはり (若いものは) 若くて(若い時) ずいぶん

nanbo kuro.sitamō ade ne ore.
 ずいぶん 苦労したが その価がないよ、オレは。

N nantosite. kono baba nante citobari kurositā
 何として、 この 婆など 少しばかり 苦労した

hito-dens. so(s)ite sora hasi eqpon tajoqta-
 人でない! そして それ 箸 一本 (他)にたよっ

de.wage nægu kamādo moqte ema nareba nani
 たというわけでも なく 家を 持って 今に なれば 何一つ

ne.de kodo nægu a. jaqte kurasiteru-mono.
 ないということも なく ああ やって (立派に)暮しているもの。

kono hito-no dae-ni kamado kosiradande unte
 この 人の 代に 家(財産)を こしらえたんで ほんとに

nanbi sija hitoda.
 難儀 した 人だ。

R ora ema-daba sono kanzjo nee. nanmo sanæ-te-
 オラ 今なら そんな つもり ない。 何も しなくて
 (勘定)

mo asunderarunda.
 も 遊んでいられるもの。

N ndaena. asunde.
 そうだよなあ、 遊んで。

R n-
 んー。

N kudagedae.
 食うだけだね。

R sore-demo oree-no kijosi-dake, baba mo-ni-
 それでも、 うちの 清なら(は) 婆 もう 二

neN sinansede kerejarte jumonda.
年は 死なないで 呉れやと 言うもんだ。

N N.
んー。

R emadakje sinodakje taehendæqte jumonde……
今(は) 死のうなら 大変だって いうもんで ……

N maggo-ga.
孫か?

R N' ko ho'ræ. N kadede morauqtega.
んー、子よ、ほれ。 かでで (世話して)もらうというのか。

R N
ん。

R dakjæ, aja (anna mon hicujode) egiderajæqte…
したら、 まあ (不明 なにが必要で) 生きてるのかって……

N egidera-jadz# warigodo newaja. kwasjeru
生きているの わるいこと ないよ。 食わせ(してくれる)る

hito sjeba egidereqte jukoqtaba nanbo-demo
人、 (それなら) 生きていと いうのなら、 オラ(俺)いくらでも

egira.
生きるよ。

R nani…… emadake sje-ba manma sjaqto nizjn
ななに、 今なら (すると) 飯 サァーと 二杯も
(少い形容)

are-ba egideraru mono.
あれば 生きていられる もの。

R ……nani anmari nagægu egideru jadz#-mo
……ななに あんまり 長く 生きてる もの

egunedea.
よくないよ。

N uN. ↗
うんー ↗

R anmari nagægu egiderw-mo egunemonda.
あんまり 長く 生きてるのも よくないもんだ(いいもんでない)よ。

- N daqte sigadanena.
 だって 仕方ないよ。
- R aja sinudaqte sinarenesinaja.
 ああ、死ぬといたって 死なれないしなあ。
- N waqæ mono-ne cito-ando sasjeretataqte egir
 若い 者に 一安堵 させろといっても 生き
- deru mono nanto site, orananka futaridzure-
 ている ものを 何と するって、 オラなんか 二人連れて
- de jaga naqteru-domo.
 厄介に なってるんだが。
- R esogasi dogi-daba so-ju-taqte kondo horjæ
 急がしい 時なら そういっても こんど それ
- siḡodo negu naqte nareba kondo jaqpari
 仕事が なく (なって) なれば こんど やっぱり
- konda sjoside……
 こんどは 笑止(恥ずかしく)で……
- N sjosi-to omoeba sjosi-si, ora-nante do-se
 笑止だと 思えば 笑止だし、 オラなんて どうせ。
- nani…… koremademo asuḡdemo edabesi, ku-da-
 なあに …… これまでも (反語法) 俺 遊んでいたわけでもないし 食うだ
- ge-no kodo sitanda-mono, nani. ema-mi-jo-daba
 けの こと したんだもの、 なあに。 今時では
- ta-mo kawe-ne-si jama-mo kawe-ne-taqte, ku-
 田も 買えないし 山も 買えなくても、 食
- ta-kiri-ni suru-tatate, modo sje-ba nanto
 うだけで 何も出来なくても、 それなら もとは なんと
- nanda monde aqtate heba-naja.
 どうした もので あったってえ。
- R Ndaqte.
 そうだ。
- N ema-daba nanbo hadarada-tataqte ku-ade-ne
 今は どんなに 働いたところ 食う アテには

sarene, nandara hitodaqte, maruqkiri kikaq-ne
されない, どんない 人だつて, 何もかもすっかり 機械に

bari jaqte-na.
ばかり やつてねえ。

R N.
ん

N a ja:site omægada ndaene nenedi ene kogune
あのようにして お前がた あのように 寝ないで 稲 ときに

aqtari, soekoso jorugara joru-made hadaragu-
歩いたり, それこそ 夜から 夜まで 働きに

ne aqte. ema no mono-daba dare sjeba.
歩いた。 今 の 者なら 誰が そんなことするものか。

R aeja.
そうだ。

N hiruma-made ene agedekite, hiruma-kara
昼間まで 稲 上げて 来て, 昼間から

kome-ne site simaqte cianto siteru-denaja.
米に して しまつて, ちゃあんと しているよなあ。

R honta un
ほんとか, うん。

N ene kara agedaqteba koguni ebæ.
稲 から 上げたといへば もうこくに いいだろう。

R ema-daba e. (聞きとれない)
今は いい(なあ)

N N' modo baga-midæde aqtadena.
ん。 むかしは まるでバガみたいで あつたなあ。

R ndae.
そうだねえ。

N mamande enjo-ne cunde sjogwadza kuru-made
すっかり 稲 鳥に 積んで, 正月が 来るまで

kagate ene kanagogi moqte koede.
かかつて 稲を カナコギで こいで。

R hontone ano zjogen moqte osu adzu-ne ano fun-
ほんとに あの ジョゲン で 押す のに ヒビ
(皮軍)

bin jaman naqte-na.
が 山に なってな。

N nda. site kojaste ora-nante ogosjenegaqtadæna.
そうだ。そして、 こういうようにして オレなんて(指を) おこせなかったなあ。
(指を屈めておこす所作をする)

R jasme-ba kono te-no naga buru buru buru buru-
休むと この 手の 中 ブル ブル ブル ブル

qte are te kojaste hitogærine ogosaene
と、 あれ このようにして 一遍では おこされなかった

monde aqtadena, ano zjogen.....
もんだったなあ、 あの ジョゲン

N honta. komeqko-no zjugohjo-mo fugu-dage
ほんとだ。 米の 十五俵も ひくだけ

ene tamere-ba niwa-sa jama-N narudage tama-
稲を ためると 庭に 山に なるくらい たま

qta-monda-dænaja, kanagogi-ne konda dogi-
ったもんだよなあ、 カナコギに こいだ時だ と。

dabana. sore kondo edziNdzi kagaqte tada-de.
それを こんど 一日 かかって たたいで…。

nangi sjta-do omoeba eman nare-ba baga-mi-
難儀 したと 思えば 今に なると バカみ

dæda.
たいだ。

R daqte sono to-ri-daqta (mono).
だって、 全くその 通りだったもの。

N N.....
ん。

R ema-nante nadzu-mo furi-mo kudzusita hana-
今は 夏も 冬も 靴下 放

sanede tajama-sa haqtera.
さないで 田や山へ 入ってるよ。

N N. さん。

R sje-ba emane nawasiro-sa orire-ba asi horo-
すると、 今に 苗代へ おりれば、 足を 入

qte-mo <N hontoda> hadasi-ni naqte haetaje.
っても <ほんとかだ> はだしに なって 入ったよ。

N so(r)e-koso, nawasiro-sa haeru joni naqtara,
それこそ 苗代へ 入る ように なったら、

jome mugo nigere-te, so eqtatate ema-no
嫁 賢 逃げろって そう 言ったにしても、 今の

mono-da-kjæ nanbo nawasiro-sa haetaraqte
者なら どんなに 苗代へ 入ったところで、

fukæba fukæ joni togonãgaderadaqte hagi <R
深ければ 深い ように トゴナガとやらを はき <R
(特長-特別に長いゴム長靴)

Nda > asæ-ba asæ joni suedengucudado nanda-
そうだ > 浅ければ 浅い ように 水田靴とか 何とか

do so ju jaçu hade, e-sa ãgate kita-do omoeba
そう いう ものを はいて、 家へ 上って 来たかと 思うと、

asi-mo arawanede, ta-sa eqte kite-mo sono
足も 洗わないで 田へ 行って 来ても その

manmanẽ aga-te hizjako oqte manma kuqtera.
ままだに 上って 膝を 折って 飯を 食ってるもの。

<R, aja nda> ora sjeba ta-sa eqte keba e-no-
<うん、そうだ> オラ、 すると、 田へ 行って くと 家の

mesa minna hãndaga ni naqte kiru monomãde
前に みんな 裸 に なって 着る ものまで

minna oede kite soete beçuda açu cãkede
みんな おいて 来て そして 別なのを つけて、

soete mada oride eguqteba mada sore
そして また おりて いくといえは また それを (着て行った

もんだ) くらいのところ)

Rmugasī - no mon dakenara hon tone ema - no.
昔の 物のなら ほんとに 今の

hito - ni jarasjereba.....
人に やらせれば

N daqte, emagara mireba oradaçi jogu jamæ
だって, 今から みると オラ達は よく 病気を

sanæde egideda - do omouna.
しないで 生きていたと 思うなあ。

R ndantega.
ほんとだ。

N soedemo kono ora sjeba nanboga zjo - bune
それでも, この オラ すると, どれほど 丈夫に

degida monnandaga omædano orada - nanite hoga -
出来た ものなのだから, お前だの オラなど よそ

gara mimæ hitoçu moraçta kodo nædene.
がら 見舞 一つ もらった こと ないではないか。

R. hontaganena.
いかにもそうだ。

N nanto,cjo sinkicibaba nederagte gæqte eqta
なあと, 今日 信吉の家の婆 寝ているって いった
(Rの家)

kodo - mo næ - si, mogu - no baba - dano dziçcja - dano
ことも ないし, モグの 婆だの 爺だのが
(Nの家)

nederagte
寝ているって,

(R) sosa minçuko koboreda - dæ (N) uN ↗
そこへ 水が こぼれたよ うん ↗

(R) minçuko koboreda (N) ndaga (R) uN
水こ こぼれた そうか うん

so eqta kodo kida kodo nædene.
そういった ことは 聞いた ことが ないではないか。

S kida kodo næde ne - do.
〈聞いた こと ないではないか〉とよ。

R Nda.
そうだ(そのとおりだ)

【5】 <謎> よもやま話

録音日時 1967年2月26日
録音場所 秋田県おがしわきもと鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
R	安藤リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
S	吉田家主婦	〃	40才くらい	〃	〃
K	菊地正信		(聞き手 高校教諭)		
H	北条忠雄		(聞き手 編者)		

解説: <口の^{チカク}ない梅>(卵) <削れば削るほど大きくなる>(シエギー小川) <クロペジ
ンジョの力はり>(自在鉤) <ハリのヨエにバンバイドウンデル>(蜘蛛) 後二者が発音や
アクセントも関係して話がつれる。ウンデルなら<子持つ>(生んでる)ことだ。これはウン
デルだと80才の老婆という。ウムは<續む>でこれがまたもつれて愉快である。

N sore-gara sono kuçino ne taru-wa tamāgo.
それから その 口の ない 梅は 卵。

R 笑

N kēzure-ba kēzureba futegu naru.
削れば 削るほど 太く なる。

R 笑

N ba·ba togedjæ.
婆 解けよ。

N kurope-zin zjo, kurope-zin zjo-no cīkarahariqte
クロペジンジヨ、 クロペジンジヨの 力はりっていうのは

sore furoe monda.
それ 古い もんだ。

R mugasi-no monda. are are ano kāyī-no koqta.
むかしの もんだ。 あれ あれ あの 鉤の ことだ。

K kuropeqte kuroidesjo. zin zjotena zin zja-to
クロペとは <黒い>でしよう。 ジンジヨというのは <神社>と

onazi imi, zin zjoqtena nno koto-desuka.
同じ 意味? ジンジヨっているのは 何のことですか。

N zin zjoqteba ora-daba sodone tadaqteru are
ジンジヨといえは オラなら 外に 立ってある、 あれ
俺

maçī-no zin zjo-sama.
町の 地蔵様。

K zizo-samano koto-dana, kuropezin zjo-no cīkarakā-
地蔵様の ことだな、 クロペジンジヨの 力鉤
チカラカギ

gi.

N cīkarahari
力はり。(Kのチカラカギを訂正したもの)

K cīkarahari, cīkarahari sore ga kāyī-no koto.
力はり、 力はり、 それが 鉤の こと。

H kuropezin zjo-no,
クロペジン ジヨの、

N cīkarahari
力はり

H cīkarahariqte do' ju' koto-desjo.
力はりっていうのは どう いう ことでしよう。

N cīkara, cīkara cujoe-de koqtanda.
力、 力が強い という ことなんだ。

K kāyī-wa nandemo āyeru-gara cīkara cujoeqtekoto.
鉤は なんでも 上げるから 力が強い ということ。

N a·e naNdemo.
そう、なんでも（上げるから）

K kurokutene.
黒くてね。

N nandara nãNbe kagedemo,
どんな 鍋を 懸けても、

K hahaN, sono kãgi-da-kara-ne, çujoi-to.
ははぁん、 その 鉤だからねえ、 強いと。

N c+qçjæ jaç# kagedemo, oqki jaç# kagedemo,
小さい のを かけても、 大きい のを かけても、

H z+zø·kãgi-desune
ジゾウカギですね。

N kurope z+nzjo-no c+karahari
クロペ ジンジョの 力はり。

H cikara no cujoeno-o cikarahari-to juNdesuka
力 の 強いのを 力はりと いうんですか。

N N·da
そうだ。

K kotae-ŋa z+zæ-kãgi-das#-na
答が <自在鉤>ですな。

N hari-no joe-ni banba edo underu.
ハリの ヨエに 婆 糸 ウンで(い)る。

K hari-no joe-ni banba,
ハリの ヨエに 婆、

N banba edo underu.
婆 糸 ウンでる。

H edohari-no joe-ni ↗
糸 ハリの ヨエに ↗

N aN.
うん。

R kũnbonta-bæ
クモ（蜘蛛）だろ。

N N ↗
ん ↗

S kũbo-no sũ-dado
クモの 巣だと。

R kũbo-no sũ
クモの 巣。

H baNba edo
婆 糸

N a·e mugasi-daba edo (ũmũũmũカト思ウが下の如く聞える)
うーん むかしは 糸を 績み績みした ものだ ものなあ、
聞きとれない
-ni. sosite hari-no joe-ni banba edo underu,
…に。 そうして ハリの ヨエに 婆 糸 績んでる、
nazo kagedaanda.
謎を かけたのだ。

H hari-no jome-ni,
ハリの ヨメに、

N joe-ni
ヨエに、

K joeqte ue-no koto, ue-no koto joeqte hacuon
ヨエって <上>の こと, <上>の こと ヨエって 発音

suru,
する、

H naruhodo hari-no joeni banba edo ju
なるほど、 ハリの 上に 婆 糸 ユウ

N edo underuqte
糸 ウンデルって(いうのだ)

H edonderu ↗
イドンデル ↗

K ido nuqterundesubæ.
糸 ぬってるんでしょう。

N ko·siste edo umuqtebaedo umuto jueba.....
こうして、 糸 ウムっていえば糸 うむと いえば、

- K ido uNderuNdesuna hahan
糸 ウンデルンですなあ、 ははぁん。
- N nãpagu narasjeru eni ko· jori kagede <H
長く ならせる ように、 こう 擦すを かけて
- haha· naru·hodo > jaqta monDa mono.
ははぁ! なるほど > やった ものだ もの。
- H hari-no joeni banba edo uNderu
梁(ハリ)の 上(ヨエ)に 婆 糸 ウンデル
- N edo uNderuqte-anda. uNderu-dara moçuantategæ.
糸 ウンデルっていうんだ。 ウンデルなら (子)持つ(産んでる)こと
だよ。
- K uNderu uNderu
ウンデル、 ウンデル、
- N a.
うん。
- K nu·kodo-ne
<縫う>ことねえ。
- N N· N· no·goqte neanda kore.
ん んー、 <縫う>ことでは ないんだ、 これ。
- H cunãgu koto-desjo.
つなぐ ことでしょう。
- K (cunãgu koto) ha ha.
(つなぐ こと) は はあ。
- N çineqteru jaçudamono, ko·
ひねってる のだもの、 こうして。
- H a· cumũgu koto-dana
あぁ、 <つむぐ> ことだなぁ。
- N nãpagu sãru-nada.
長く するのだ。
- K ha nãpagu-suru-na
はぁ 長くするの(だね)。
- H kumo-no-su desu-ka.
クモの巣 ですか。

N N da
そうだ。

H kũNbo-desjo
クンボでしょう。(発音についていう。〔kumo〕でなく〔kũbo〕だろうという意味)

N R
ã · kũbo
うん クンボ

H kũbo-no-su
クンボの巣

N R
N.
うん。

【6】 弁 慶 の 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本 だけ
R	安藤 リワ	〃	〃 17年生	〃	〃
U	吉田 運蔵	男	〃 16年生	〃	〃
H	北条 忠雄		(聞き手 編者)		

解説： 武蔵坊弁慶そのもの話ではない。弁慶の立往生にさも似たる魚刺具のベンケイである。〈鯨ノ一本ザシトカケテ牛若丸ト解ク〉〈マグロノ一本焼トカケテ牛若丸ト解ク〉いずれも心は〈ベンケイが恐れる〉からだ。このベンケイも、囲炉裡がすたれ電気焼器がさかえ、味の素デライの一番デラがはびこるとなると、それに人の口(クチ)も奪ってジャコなどベンケイ用の小魚などに目もくれない時世となつては、もうそのものも名も忘れられつつあり、やがては永遠に消えてしまう。こんな運命のベンケイについていろいろと話してみた。

H ano benke-qtena arimasu(ka) siqte ogededesuka.
 あの ベンケイというのは (言いなおして) 知って おいでですか。
 (ありますか)

N modo-daba benke-qtenaja < R N > baba, ko-jo-
 以前なら, ベンケイというのは, なあ 婆 こういう

do-sakãpoko-sa warako zuqpari sjeđe so-
 ところへ籠に 薬を いっぱい 入れて そ

site sãpedede kono anbæni anbæna kono-guræ-
 して 下げておいて こんな, 具合に, 具合な, このくらい

barini açu sãpedede soresa kondo kusi-sa
 ほどに, ものを 下げておいて, それへ こんど 串に

sasita sagana zuqpari ko-sasitesita monda
 刺した 魚を いっぱい このように 刺した ものだ

monona. uęsa sãpedede nego kwanne tedoni.
 もの。 上の方に 下げておいて, 猫が 食わない 程度に。

H emawa anmari mięnaę wagedesuka.
 今は あんまり 見えない わけですか。

N ema so-sanæanda mono-na. ano ro, ro nemonda
 今は そのように しない もんだものなあ。 あの 炉, 炉が 無い

mono. erori ne-monda mono. kusi-sa jaede
 もんだもの。 囲炉裡が 無いもんだ もの。 串に(さして) 焼いて

kuta sagana-no eni NmægUNETATATE erori ema
 食った 魚の ように うまくないにしても, 囲炉裏 今

ęrori nækute kusisa sasite aburanemonona.
 囲炉裏が なくて 串に 刺して あぶらないものねえ。

sjeba kusi-de ne-ba nani-site sore amiwadasi-
 すると, 串で なければ, なにして, それ アミワタシ

dano ano jare saganajagi danoqte jageba
 だの あの やれ 魚焼きだの いて, 焼けば

sore çedo-sa toqte site ku-mono. jogena jaçu
 それ 瀬戸物へ 取って そして 食うもの。 余分な ものを

moqtede modo-no jo-ni-daba ~aburanեսunaja.
 持っていて, もとの ようには あぶらないものねえ。

R [~]aburanesu.
あぶりません。

N modo-daba sjeba zjako-demo nandemo cikamede
もとなら、 すると、 小鯛でも 何でも つかめて

keba benke-mo namo kuzureqtage sasite sosti-
くると、 ベンケイも なにも 崩れるくらい 刺して そし

te sore dasi-ni toqte kuqta mondatate, ema-
て それを ダシに とって 食うた もんだが、 今な

dakjæ nani dasiqte jueba jagibosi-dera
ら なあーに ダシと いえば ヤギボシだの

daqte-kodeno komidæna monosjede kuqta
などいったものや 粉みたいなの もの入れて 食っている

ora-mo siranetaqte nibosinandaga jagibosina-
オラも 知らないが、 ニボシだが ヤギボシ

ndaga kaqte kite sosite azinomodo-dera-daqte
だが 買って 来て そして 味の素とかいって

sjede sosite kuqteru-de negæ.
それをいれて そして 食ってるで ないかね。

U kuzirano iqpikizasi to kakete nanto toku, kokoro-
<鯨の 一匹刺し> と かけて 何と 解く、 心

wa benke-mo komaru. usiwakamaru-wa taihen
は <弁慶も 困る>。 牛若丸は 大変

cujoikara benke-mo komaqta wake-desjo. aite-
強いから 弁慶も 困った わけでしょう、 相手

ya dekinakaqtadesjo. mada sono kuzira-no iq-
が できなかったでしょう。 また その <鯨の一

pikizasi-wa kuzira-wa okie mondesjo. benke-
匹刺し>は 鯨は 大きい もんでしょう。 弁慶

wa cięsakaqtadesjo. dakara kuzira-o totemo
は 小さかったでしょう。 だから、 鯨を 取っても

benke-no naga-ni ireru kodo deginai wake-
ベンケイの 中に 入れる こと できない わけ

desu-jo. dakara benke-mo komaru-to ko-ju-ko-
でしょう。 だから ベンケイも 困ると、 こういうと

to-desu-ne.
とですね。

H kuzira-no eppon (K) iqpikizasi.
鯨の 一本…… 一匹刺し

H eppikizasi-desuka
一匹刺しですか。

U kuzira-no iqpikizasi-to kakete dasubæ.
<鯨の 一匹刺し>と かけて でしょう。

(N) Nda. (K) nanto togu.
そうだ。 何と 解く。

H are hacirogada-no, are doqci kana. hacirogada-
あれ、 八郎瀧の、 あれ どっち かな。 八郎瀧

no doqci-no ho-desitakana. asoko-dewa māgu-
の どっちの 方でしたかな。 あそこでは <マグ

ro-no epponjagi to kakete desitane.
ロ(鮓)の 一本焼> と かけて でしたね。

U ha-so-gae.
はあ、 そうかね。

H māguro-no epponjagi-to kagete usiwakamaru-to
<マグロの 一本焼>と かけて 牛若丸と

tokuka. kore-mo, māguro-no epponjagi-mo ben-
解くか。 これも、 マグロの 一本焼も ベン

ke-wa komaru wage-da.
ケイは 困る わけだ。

N Nda-na.
そうだな。

H ema benke-nado oeteru uci-wa naedesjo-ne
今、 ベンケイなど おいてる うちはないでしょうね。

N Nda. toqte nāyedahā. (笑)
そうだ。 とって 投げてしまった!

H are, ko· kãgo-no tokoro e wara-o zuppai erede...
あれ, こう 籠の ところへ 藁を たくさん 入れて……

N nda, nda
そだ, そだ。

H sosite ko· sasu-nomo arusi, tada ko· wara-o
そして, こう 刺すのも あるし, ただ こう 藁を

((N) mãpedegae) cjoqto marume-danomo arunZja
(曲げてかね) ちょっと まるめたのも あるのでは

naedesuka.
ないですか。

N nda. kãgoko nãba sosita.
そだ。 籠が なければ そうした。

R (笑声) nda.
そうした。

N kãgoko kauçute-node (nedemoか) ko· karagaede
籠を 買うのでなくて こう からがいで

……sore-demo keqko· sasaqteru mono.
……それでも うまく 刺されている もの。

【7】 男鹿地震の話(その一)

録音日時 1967年2月26日

9月3日 臨地検討

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ ♀ ♀ 17年生 ♀ ♀

H 北条忠雄 (聞き手 編者)

解説: もう29年になるという男鹿地震の話。その時の模様がこまかに具体的にいきいきと語

られている。「吉ノ爺サマ、オヤッ 婆! 地震ダデアトイウシ、ナンモカモ、ソシテルウチニ、
 グワリ グワリ グワリ 下落チテシマッテ、ミデルウチニ ソゴノ アノ オンチョノ家 ツブレル
 シ、サァCOND、善助ノ家ツブレダ、オレノ家デハ カタガッテシマッテ アトハァナンモカン
 モナンネ。」まことに見事な活写である。

H z+s+N-wa ekucu-kurae-no toki-desita, oba:san.
 地震は いくつらしいの 時でした、 お婆さん。

N z+s+N-gae. z+s+na kodosi-de nizju-s+c+neN-da-gae.
 地震かね。 地震は (今年) 二十七年だかねえ。
 こととして

R kuneN naru. kuneN naru.
 (二十)九年に なる。 九年に なる。

N nizju-kuneN-ni naqtagæha.
 二十九年に なったかねえ。

R N.
 うん。

N Ndana. ano dogia mada hidægaqtadæna.
 そうだなあ。 あの ときは また ひどかったなあ。

R ore-no hora z+sama,
 オレの、 ほら、 爺さま

N nizju-kuneN-ni naqta
 二十九年に なった?

R Nda, nizju-kuneN-ni naqta. cjonEN.....
 そうだ、 二十九年に なった。 去年.....

N sjeba, ore-no sabu sjeba nizju-ku-ni naqtagae.
 すると、 オレの 三(郎), すると、 二十九に なったかねえ。
サ

R ododosi ore, aeda-mono, nizju-s+cika(ε)da mono.
 おととし、 オレ、 あれだもの、 二十七回(忌ナラム)だ もの。

H z+s+N-de nakunaqta kata-mo oqtaN-desu-ka.
 地震で なくなった 方も おったんですか。

N ã·N, sore sogo-no soba-no zjENnosuke-nonaja
 はい、 それ その 側の 善之助のねえ

z i q c j a e^N-no-s i t a - n i n a q t e s i^N d a n e g æ .
爺ッチャ 家の下に、 なって 死んだもの(直訳<死んだではない
か>)

H h a .
はあ。

R o r e - n o t o n a r i - d a .
オレの 隣だ。

N c u b ū r e d a e q t e n a n g e n - m o a q t a e . e d e n i c ū b u r e -
つぶれだ 家という 何軒も ありました。ひどく つぶれ
d a e . n a .
た 家がねえ。

R n d a . j a q p a r i a n o z i s i^N - d e e n o m o n o - m i n n a ,
そだ。 やっぱり あの 地震で 家の 物みな(つぶれ)

c j o . n o s y k e - n o k o - m o s i n d a b a , f u t a r i - m o s a n n i^N -
長之助の 子も 死んだし、 二人も 三人

m o s i n d a n a .
も 死んだ。

H e ç u g o r o - n a n - d e s u , a n o z i k o k u - w a .
いつごろなんです、 あの 時刻は。

N f u r o e d a q t a n a n i z i g o r o - d e a q t a n a .
震えたのは 二時ごろで あったな。

R n d a - n a , o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o .
そうだな、 (田圃へ)降りて行ってからだ もの。

N o r i d e q t e - g a r a - d a m o n o , n i^N n i z i g o r o , g ō j o - n o
降りて行ってからだ もの、 二時ごろ、 午後の

n i z i - g o r o - k a r a n i z i g o r o n i , b a q c i r i n i z i - d a d e .
二時ごろから、 二時ごろに、 バッチリ 二時だという

w a g e - m o n e . s i , < R a . j a > s o r e - j o k a h a j æ
わけも ないし、 < そうだ > それよりか 早い

w a g e - d e n e . d o m o , o r a , w a g a r a n e d o m o m ā n ç u
わけでも ないけれど、 オラァ はっきりしないけれど、 まず
(俺)

n i z i - g o r o d a q t a n a .
二時ごろ だったな。

H oba:sa^N-nado ta^Nbo-ni orareta^Ndesuka, ni^Nzi-
おばあさんなど 田圃に おられたんですか、 二時

goro.
ごろ。

N are, sore, ta^Nbo-sa ta. ugi-ni eqte aqtana,
アレ、 ソレ、 田圃へ 田を 打ちに 行って あったな、

adari-no mo^N-daba.
近所の 人たちは。

R Nda.
そうだ。

N si⁺ta-domo ore-no musume-sjæ ko moqtete aqta
けれど、 オレの 娘よ 子 持って いた

mono-na, warasi moqtete aqta mono-sæ sonde,
ものなあ、 フラシ(童) 持っていて あった もの、 それで、
(赤ん坊)

H aq, osa^N-de,
アッ お産で

N ~
R あい。
はい。

H osa^N-de, kodomo-sa^N mmare-te oqta^N-desuka.
お産で、 子どもさん 生れて おったんですか。

N ~
R あい。
はい。

N sorede sono dogi eqsjukan-me-de aqta mono-na.
それで、 その 時 一週間めで あった ものなあ。

R Ndagaē.
そうかね。

N un. so. ju. kodo netate, ore-no je-daba hido-
うん。 そう いう ことが なくても、 オレの 家なら、 ひど

gu edande aqta mono-na.
く 傷んで いた ものな。

R Nda.
そだ。

N modo-no jedaba kore-jori z#qto oqkigata
 もとの 家なら これより ずっと 大きかった
 (今の家)
 mono. sonde māNç# ko· jo· anbae-ni naqta
 もの。 それで まず こう いう 場合に なった
 mono-na. kogo-sa adarine jene amadare oçide-
 ものな。 ここへ あだりに 家に 雨垂れが 落ちて
 (家のここらあたり, 分析的表現)
 ru mono-ga mæ-no ho·-sa c#nomeqte, sanzjagu-mo
 る ものが 前の 方へ つんのめって, 三尺も
 mugo·-sa c#nomeqte, sono amadare oçide aqta
 向こうへ つのめって, その 雨垂れが 落ちて いた
 mono-na. sore-dage kadagaqta monde aqtante-ga-
 ものな。 それくらい 傾むいた ものだから,
 ne jaqto todasita-ne-gæ, cjan to. annakotaba
 やっと (娘を)出したもの, ちゃあんと。 あんなことは,
 hontone nantoga sjeba e·Ndaga ade negaqta.
 ほんとは, 何と すれば いいのか アテが なかった。
 (目当)
 sore, kondo taehigoja-no k#so kaddmededa
 それ, こんど, 堆肥小屋の 基礎 固めていた
 dogo daqta mono-na. <R u·N> jesi-no zi-sama
 ところ だった ものね。 うーん 吉(田)の 爺様
 kite, soe kondo sjemen noqtede kede aqta
 来て, それ こんど セメン 塗って 呉れて いた
 mono-sjæ, ore konda noggi hide noggi hide-ha
 ものねえ, オレ こんだ 暑い 日で 暑い 日で
 manma kuqtaba sogo tadedeqte kenega, anmari
 飯 食ったら そこを 閉てていって 呉れないか, あまり
 nogiante ore ma· (ne)hitoneri neraqte so·
 暑いから, オレ まあ 一寝入 寝るよって そう
 ju·si, a· Ndaga sitara ore tadede ega·naqte
 いうし, うん そだから それなら オレ 閉てて 行くよって
 kogo-sa kamesinabeko kageru-bari-ni site
 ここへ 粥飯鍋 かけるばかりに して

kono kāgi-sa kagede, sosite kura-sa kome
この 鉤に かけて, そして 倉へ 米

eqpjo. āgede tāgade aqtedaba, tagæde mo. hi-
一俵 上げて 持って 歩いていたら, 持って もう 一

togæri egeba e-baride aqta wage-dana. sono
遍 行けば いいばかりで あった わけた。 その

dogi, kon-do nani sita mono-na, na-nto jemeni-
時, こんど, なに した ものなあ, なあんと 家前には,

daba, sore jesa haqtekuru-do omoqtaba, mme-
それ 家へ 入って来ようと 思ったら, 梅

no-gi musjo-ni ugogu mono-na. so-siteru uçi-
の木が 無精に 動く ものな。 そしてる うち

ni, josi-no zisama oja baba zisindadæqte jursi,
に, 吉の 爺さま 「おや 婆, 地震だ」と いうし,

nanmo kanmo, so-siteru uçi-ni, gwari gwari
なにも かも, そしてる うちに, グワリ グワリ

gwari gwari oçide sīmaqte, mideru uçi-ni
グワリ グワリ 落ちて しまつて, 見ている うちに,

sogo-no ano onçjo-no je cubureda, sa kon-do
そこの あの オンチョの 家 つぶれた さあ こんど
(屋号)

zennosuke-no je cubureda. ore-no jedeba
善之助の 家 つぶれた。 オレの 家は

kadagaqte simate ado-ha nanmo kanmo nanne.
傾むいて しまつて あともう どうも こうも ならない。

【8】 男鹿地震の話 (その二)

録音日時 1967年2月26日

(同年9月3日 臨地検討)

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田 ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤 リワ " " 17年生 " "

H 北条 忠雄 (聞き手 編者)

解説: [7]につづくもの。テープの都合で一連続のものを[7]と[8]とにわけた。産後一週間目赤ん坊を抱いて寢床にいた娘さんをトダシた母親(今の老婆)の愛情が胸を打つ。<デハテ(外に出て)死ヌヨリ寢床ヲ死ンダホーエガッタ>外に出てもおおぶなかつた激震を語る言葉である。最後の結び、ホントネ(に) アングラ オッカネメニ アウコトモ アルモンダネエガ。トダスは<出す>こと。<取り出す>から。ダスはこの地帯で共通語のヤル(与える)意味に用いているので、ダスはトダスという。秋田一般はクレルもヤルもともに<ケル>である。

N a nde aqqu-mo na nmo naranækute, je-sa haeqte
歩いて うまく どうも 歩けなくて 家へ 入って

kuro-do omoqtaba, mododaba kue Nna niwa-no
来ようと 思ったら、 以前は 杭は みんな ニワ(土間)の

haru-sa aþede edaqta mono-na <R Nda>
梁へ 上げて おいたものなあ そうだ

tara-do, tara sãzju-mo gõzju-mo a nde aþe-de
僕と(いっしょに)。 僕 四十も 五十も 編んで あげて

aqta aqþ-mo maroqkiri oqþ-te simate, je-sa
あった のも すっかり 落ちて しまって、 家の中へ

haqte koraene-mono-na. <R un.> na-sini haqte
入って こられないものな。 うん。 「なににしに 入って

eguqte, ema je cæbureru dogo-da, haqte egu-
いってえ、 今 家 つぶれる ところだ、 入って 行く

naqte. oja, oçjjo nededa mono nanto-sjite
な」ってえ。「おや、お千代が 寝ている もの、 なんとして、

sore-daba eganebana nneqte sogo-gara haqte
それは、 行かなければならない」と 行って 入って

kuru-taqte korarene mono-na. <R uN.> so· ju·
くるといっても こられない ものなあ。 <うん> そう いう

mondadate kondo koqçino ho·no amado-gara
もんでも こんど こっちの 方の 雨戸から

kondo soe amado-mo konda ko· naqta-ba agara-
こんど それ 雨戸も こんどは こう になったら 開か

næbæ. <R uN.> sore-de kondo jabusite sosite
ないだろ。 <うん> それで こんど 破って そして

nedogo-sa eqte fuqpaqte kija monda. sono ko
寝床へ 行って ひっぱって 来た もんだ。 その 子

hitori dagasjede kondo, sono çjanto, konda
ひとり 抱かせて こんど その ちゃあんと、 こんどは

sora nanboga naqta mondabeka, modo-daba ni-
それ どれほどに なった もんだろか、 もとなら 二

zjueçniçi dogasane monde aqta mono-na.
十一日(間) (寝床を) 退かさないうもんで あった ものなあ。

<R uN.> kondo nantomonaranesi, soe tōdasi-
<うん> こんどは どうも ならないし、 それを 出し

te kitaba kogo-no oga-no mama mada emadaba
て 来たら、 ここの 岡の崖(ガケ)が また 今なら

ko· hiroe-domo sono mama zu·qto konda kuzurede
こう 広いけれど その ガケが ずーっと こんどは 崩れて

kija monda. benzjo-do je-do kondo ko· çgu-
来た もんだ。 便所と 家と こんど こう くつつく

dage unpoguacçha. nanto kantomo, ore sjeba
くらいに 動くのだよ。 なんと も かんとも、 「オレ すると

dehate kite sinu-andagæqte ju· mono-na.
出て 来て 死ぬのだから」と いう ものな。

<R. uN.> dehate kite sinu-aNdaba nedogo-ni
うん。 「出て 来て 死ぬのなら 寝床に

ede siNda ho egaqta-dæqte so ju'si, sitadomo
いて 死んだ 方が よかったよ」と そう いうし、 だが、

māNçu māNçu dogo-sa cūrede egeba eN-dero-to
まず まず どこへ 連れて 行けば よかるうかと

eqtakjæ māNçu ma· konçukæ-no kiso-no naga
言ったら、 まず まあ 肥塚の 基礎の 中

kadamaqteran tegani kogo-sa cūre-de koe(qte) ...
固まっているから ここへ つれて 来い(って).....

so·site kondo sono soqkara konda non non
そうして こんど その そこから こんどは グン グン

non-do hasjede aqte tara go-hjo-mo san-bjo-mo
グンと 走って 歩いて 俵 五俵も 三俵も

māNçu hagon-de sjeba side nemarasjede side
まず 運んで、 すると (それを)蹴いて 坐らせ敷いて

nemarasjedataqte māda harusagi-de sābisi,
坐らせたっても まだ 春先のことで 寒いし、

futon-mo neba nanmo nekute, māda, soe sono
蒲団も 無いし 何も 無くて また それ、 その

ogu-no ho-gara kondo jesa eqte nemagi moqte
奥の 方から こんど 家へ 行って 寝巻 持って

kite sosite kondo sogosa futon tāpadeqte-na
来て そして こんど そこへ 蒲団 持って行ってな

<R. uN.> hitobanqe konda sogo-sa ko dagi,
うん。 一晩け こんどは そこへ 子 抱き、

Nde simi-no eNda açu kaqtaaçū sodo-no hija-
そして 炭の 様な もの 買ったのを 外の 廂

si-sa āyede aqta açu sore Nna magurede kita-
へ あげて あったの それが みな ころげて 来た

si, ore tāpade aqta kome jesa moqte konede
し、 オレ 持って 歩いた 米 家へ 持って 来ないで

sodo-ni arusi, hore, konda koqçigara moqte
外に あるし、 それ、 こんどは こっちから 持って

(eta) kemesi-nabe jaqtoga taqade kite sicire-
(いった) 粥飯鍋 やつと 持って 来て 七輪

N-do taqade kite soete kondo sodo aqkone ede
と 持って 来て そして こんど 外、 あそこに いて

maNma taeda wage-ja. <R Ndaga.> sosite
飯 炊いた わけよ。 <R どうか.> そして

kondo kæmesi nide maNma kwasjede soe mo ha...
こんど 粥飯 煮て ごはんを 食わせて、 それ もう ハア

maçuri cikagumo narusi, 不明
祭 近くも なるし、na. <R UN.>
.....なあ。 うん。

tonari-no jegara moraqtari sita açu sosite
隣の 家から 貰ったり した の、 そして

jade oede aqtaaçu jaçu, kondo ma ma ha
焼いて 置いて あったの、 こんど まあ まあ ハア

naniga nusundo midæni site koqçigara mawaqte
まるで何か 盗人 みたいに して こっちから 廻って

ete kondo todana-gara taqante aqte ni-de
行って、 こんど 戸棚から 持って 歩いて 煮て

maNma sosite kondo maNma kwasjede, hitobange
ごはん そして こんど ごはんを 食わせて、 一晩げ

soni ede sono nanda endo ni gorogaqte erutata-
そこに いて、 その なんだ、 井戸が 濁って いても、

te endogara mançu ma minzu kunde maNma ta-
井戸から まず まあ 水を 汲んで ごはん 炊

de jagimesi-nikite, maNma tade jagimesi-niki-
いて 焼飯を握って ごはん 炊いて 焼飯握って、

te, ciqçjæ nabeko-dandamono-na. <R UN.>
小さい 鍋コなのだものなあ。 うん。

site, soe kondo nna santo nanto sitaqte
そして、 それ、 こんど みんな 産人(なんかから) なんと したって
(皆) *

muraçjɯ-no mono kurubæ. <R Nta> na. nanto
 村中の 人が くるだろ そうだなあ。 「どう

sita, nanto sitaqte sono nanno kuru mono.
 した どう した」といって その なんの、 くる もの。

sjõnbo-gada-gara mura-no hitogada nna santo
 消防がたから 村の 人たち みんな 産人

nanto sitate kite kerusɨ, sore maçu santo-mo
 何と したって 来て 呉れるし、 それ まず 産人も

nanmo e-ante jagimesɨ keqte. nançju:-gæri
 何も いい(無事だ)から 焼飯 食えっというわけだ。何十遍(となく)

joqta monda <R Nda.> nãN:çjugæri-demo joru
 揺った もんだ。 そうだ。 何十遍でも 揺る

monda monona <R na·nto site.> nde sjeba æ
 もんだ ものなあ。 なあんと して。 それで、すると、 あれ

he·ba hitobanðe-ni sançju·nanbo-gæri-daba joqta-
 すると、 一晩げに 三十何遍は 揺った

takena <R N.>
 けなあ。 ん。

hontone andara oqkanæmeni aukodo-mo arumon-
 ほんとうに あんな 恐ろしい目に あうことも あるもん

danega.
 ではないかね。

【9】お 屋 の 対 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居歴)
N	吉田ナツ	女	明治22年生	農業	脇本だけ
U	吉田運蔵	男	〃 16年生	〃	〃
K	菊地正信			(聞き手 高校教諭)	
H	北条忠雄			(聞き手 編者)	

解説：録音中にお昼になり，昼食のご馳走にあずかった。

これは，その昼食中のなまの対話である。実はこの対話録音を特に注目したのは，話中に出る
<ziNḍisiteranaḌera> という語句一表現が見えるからである。秋田のよそなら普通
<ziNḍisiteranādabe><ziNḍisiteranādasube> などなるところ。

N gohan nobede

ご飯を だして(ください)

K ija takusan ado korede zju·bun-desu

いや，たくさん。 もう，これで 十分です。

U juqkuri agaqte

ゆっくり 上って(ください)。

N sjeNsje sore ziNḍi siterujodanaḌera

先生！ それ 遠慮 しているのでしょう。

K eq ↗

えっ ↗

N ziNḍi siterujodanaḌera

遠慮 しているのだろうてえ。

K ziNḍi sitera ↗ nante imidesuka

ジシギ シテラ ↗ 何という 意味ですか。

N enrjo-siteru-de ju: kodo

遠慮してると いう こと。

K nanno enrjo-site nai zju·bun onaga iqpæda.

何の 遠慮して ない。 十分。 おなか いっぱい。

sense· ano ziNḍi-sitera qte enrjositeru qte ju·-

先生 あの ジシギシテルって 遠慮してること いい

suka. so. ju·subega.

ますか。 そう いうでしょうか。

H e· e: ju·desune.

え えー 言いますね。

K ora hāzimedē kida kore

オラァ はじめて 聞いた， これ。

N agireda mondane.
あきれた もんだねえ。

【10】 おじいさんとおばあさんの^{のど}喉コ

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉^{おがしわかもとおがくら}

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

U 吉田運蔵 男 明治16年生 農業 脇本だけ

N 吉田ナツ 女 〃 22年生 〃 〃

解説：おじいさんの唄は＜脇本は火事で二度焼けたが三度焼けたらそれこそどうにもならぬ＞という趣旨だが、どういう時謡うのか聞きもした。お婆さんのは、白引歌のよし。じいさんのも或はそんな時のものか。

(イ) おじいさんの唄

U wagimodo-wa nan-no baçu-jara nido jageda.
脇本は 何の 罰やら 二度 焼けた。

sando jageda, sando jagedara nodadzune-dja.
三度 焼けた, 三度 焼けたら 容易でない。

a: jagedara sando jagedara nodadzune-dja.
あー 焼けたら 三度 焼けたら たいへんだ。

ja: do na:
ヤート ナー

(ロ) おばあさんの唄

N s̄abukaze-no gorinnāḡane-no: (tona) edosusugi
寒風の 五輪長峯の (とな) 糸薄

edosusugi ūma-ni c̄kedemo jura jura-do:
糸すすき 馬に 付けても ゆら ゆらと

(cūzugane anda) masaga cūke-demo jura jura-do
 (つづかないのだ) 馬に つけても ゆら ゆらと
 —自分の声のこと—

ja: t̃o na: koju. uda·da.
 ヤート ナァー こういふ 歌だ。

【11】 餅のかぞえ歌

録音日時 1967年2月26日
 録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
*がしわかもとがくら

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
 N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

- 解説： 1. フトツ-フグダモチ 2. フタツ-ナリダ・モチ 3. ミツツ-ミソツケ-タンボモチ 4. ヨツツ-アンツキモチ 5. イツツ-クスリモチ 6. ムツツ-ミヤゲモチ 7. ナナツ-ジョ-ニモチ 8. ヤツツ-カザリモチ 9. コノツツ-オガノモチ 10. トオ-センキモチ

どうもモチゴメをついた、本物のモチでないのもありそうだ。以上このままでは続かないものがあるが、それはここでは橋わたしのことばを省いたから。例えば、フタツ フウフノ ナリダモチというように。

N futoçt̃ fugureda fuguda-moçt̃. futaqc̃t̃ fu·fu-no
 一つ 膨れた ふくだ餅 二つつ 夫婦の

narida-moçt̃. miq̃c̃t̃ miso-cūke tanpo-moçt̃daç̃.
 なりた餅 三つつ 味噌付け たんぼ餅(だよ)

jōq̃c̃t̃ jōwore-da ādzugimoçt̃. eç̃t̃ç̃t̃ ešjādo-no
 四つつ 汚れた 小豆餅 五つつ 医者殿の

kus̃rimoçt̃ muq̃c̃t̃ mus̃ame-no mijāde-moçt̃.
 くすり餅 六つつ 娘の みやげ餅

nanaç̃t̃ nanakusa zjō-nimoçt̃. jaq̃c̃t̃ jas̃ugi-no
 七つ 七草 雑煮餅 八つ 屋敷の

kāzari-moçt̃. kogonoç̃t̃ konojeno oganomoçt̃.
 飾り餅 九つ この家の おがの餅

to-ni tosorino senkimoçî, nāda.
 十に 年寄りの せんき餅, なんだ。

【12】 若い時の話 ちょっぴり

一夫婦仲よくかせいだこと一

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
おがしわかもとのおくら

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
 N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

解説：題名の如くしかり。

しかし、ちょっと。田へも山へも<働きにゆく>のをすべてオリルと言い、帰宅一仕事から帰ることをアガルということ、この短い中にあらわれている。

- N ore-daba jama-sa oride eguqte jueba, je-no
 俺は 山へ おりて いくと いえば、 家の
- naga kadaçuke-de, soqte to tade-de to sime-de
 中を かたつけて そして 戸を たてて 戸を 締めて
- eqte, je-sa kite manma-no sitagu site kuta
 行って 家へ 来て 飯の 支度を して 食べた
- mōnda-mono, wakæ uçi-na. s jeba, ore-no dz+qcja
 ものだもの、 若い うちは。 すると、 うちの 爺は
- mada agaqtē-gara kondo tamawari guruqto site
 また (田から) 上ってから 今度 田廻り グルッと して
- sosite kuru-anda mono.
 そして くるのだ もの。
- K haha-tan tamawari site kuru wagne.
 ハハ タン 田廻り して くる わけねえ。

N sosite jesa kite manma kuanda-mono-na. sono
 そして 家へ 来て 飯 食うのなものなあ。 その

tame-ni doqci-mo esogasi açu-da mono-na.
 ために どちらも いそがしい のだ ものなあ。

【13】 や づ の め

— 一つの花に実が八つなる梅の話コ —

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
 吉田運蔵宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

R 安藤リワ 〃 〃 17年生 〃 〃

K 菊地正信 (聞き手 高校教諭)

解説：一つの花で実が八つなる梅——オラ（俺）食ったこともないし、なってらどごみたこともないがたしかにあると信じている話。話し手のアルデゲッ（←アルドガエ〔arudogaē〕）に対して聞き手が＜アルデショウ＞と理解したのに、＜アルド、ハッキリアルアンダ＞と力を張って言っているのがコトバの上でおもしろい。ガエに対する聞き手の誤解である。

N sore-gara sogo-no sado-sa^N-no je-ni-mo ũmebaja-
 それから その 佐藤さんの 家にも 梅林

si aqtasuna. ema-demo kasimasamaqte ewagurano
 ありましたね。 今でも 鹿島様ってえ 岩倉の

hazizirosama-sa ege-ba kasimasama-no soba-sa
 八次郎様へ 行けば 鹿島様の 側に

egeba jaçunomeqte arudegaē, oredaba eqte mida
 行けば ヤツノメって あるとよ、 オレなら 行って みた

kodo-mo nedomo. hana futoçusa jaqcu narudo.
 ことも ないけれど、 花 一つに 八つ なるよ。

K ja-cu-fu-sa-no-meqtene
ヤーツフーサーノメってね。

N Nda. jaç̣u-no-me, sore-daba umeç̣uke-ni cagedemo
そうだ。 ヤツノメ, それは, 梅漬に 漬けても

kawari neqte-anta.
変りは ないとだど。

R honda-ja.
そうだよ。

K jac̣uomeqte oisie mondesjo-ne. Nmæ mon-dasu-
ヤツノメって おいしい もんでしょうね。 うまい もんでしょう

bona.
なあ。

N nantoga nandaga, ora kuqde mida kodo-mo ne-si
どういうものか, 俺 食って みた ことも ないし

naqtera dogo mida kodo-mo ne.no hōbano.
なっている ところを みた ことも ない。 の そばの

kasimasama-no hōnba-no jac̣uomeqte ju-ki
鹿島様の そばの ヤツノメって いう 木

eqpo do, mugasi-gara-no ki.
一本 と, 昔からの 木。

R

Naē, maç̣u kasimasama-no ki. o:mugasigara
.....あい, まず 鹿島様の 木。 大昔から

aruantagaē, jac̣ufusanoume-daqte ju-mono.
あるのだよ, ヤツフサノウメだと いう もの。

sono ūme aru-anda.
その 梅 あるのだ。

K arancjageqte ju-funi ko-ju-N-desu-ne, aru-
アランチャグエって いう ふうに こう いうんですね, ある

desjo-neqtene.
でしょうねえっていうことね。

N aru-do. haqkiri aruanda.
あると。 はっきり あるのだ。

K ndas#na. arancjageqte to-ju-bae-daba arude-
そうですね。 アランチャゲエという場合は、 <あるで
sjo.-dasbae.
しょう>でしよう。

R honda.
そうだ。

K arudaro-qte-ne, ju. imi-ne, arudoqteba haqkiri
あるだろうってね、 いう 意味ね、 <あるで>っていえば はっきり
aru wage-da.
ある わけた。

N haqkiri aru-anda.
はっきり あるのだ。

【14】 繁次郎の話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)

N 吉田ナツ 女 明治22年生 農業 脇本だけ

解説：大分のキッチョムみたいなものがどこにもある。いわば日本の伊曾保氏である。ここに四つ話してあるがあまりたいしたものではない。

① 鯨は川に ② 紅餅 ③ 山さ行ってマギきり ④ 若勢ぶり

① 鯨は川に

N s̄iN̄ez̄iro, s̄iN̄ez̄iro, baba-do futari ẽde aq-
繁次郎 繁次郎 婆と 二人で いて あっ

tadogæ. musasino sîndeziro-no baba-na na.N-
たとよ。 武蔵の 繁次郎の 婆なあ なおん

to karate jande-sjæ janedeba motekurusi,
と からだ {は 痛むし } 屋根てえば 漏ってくるし
を 病んでそれに }

ma. hjaqkiguromi-ni naqte mesi-mo nanmo
まあ 借金ぐるみに なって 飯も にも

kwaene wage, maeniçi nederujori-mo hoga na-
食われない わけ、 毎日 寝ているより ほか な

gute-na. sosite ame-wa furusi-sjæ, niwa-mo
くてなあ。 そして 雨は 降るし、 庭も

nanmo kawa-ni naqte simata wage-da. sitaba,
何もみな 川に なって しまった わけだ。 したら

sîndeziro, na.Nte madaja niwa-mo nanmo kawa-ni
繁次郎 なおんて また 庭も 何も 川に

naqtane. kore-demo sjeba asanderugæqte, baba
なったなあ。 これでも、 すると、 遊んでいるのかと 婆、

sore kudoeda-do, eçiniçi. cjame zjori donto
それ、 口説いたと、 一日。 チャメ ジョリ ドンと

nâde-de, sora banba kâdo ojõnde kîta cûkamera
投げて そら 婆 鯨 泳いで 来た、 掴め、
(にしん) つか

kâdo ojõnde kîta. na. kawa-da mono kâdo ojõ-
鯨 泳いで 来た。 なあ、 川だ もの、 鯨 泳

Nde koneba nanne-na. so. ju. mon-da wage-sjæ.
いで 来なければ ならないなあ。 (万事) そうした わけだ。

② 紅餅

N tonari-no mono mire, asa-q-kara ban-de-made
隣の 者 見る、 朝から 晩まで

moçî cude, a. ja site kanmoçî (hosite-eru Nda-ne
餅を ついて あのように して 寒餅 乾して、 いる貴様

oede トナルトコロ)

nê oede moçîko hitoçû kwasjerene-de nandaqte,
に おいては 餅コ 一つ 食わせられないで なんだってえ、

so· ęqta wage-da.
そう 言った わけだ。

sita-ba, ę· ę· asama-ni zuqpari cude kwasjeru.
そしたら, ええ ええ 朝に いっぱい ついて 食わせる。

sjogubeni kaqte ke, fūdeko-do. baba-ne sjo-
食紅 買って こい, 筆ッコと。 婆に 食

gubeN-do fūde ęppo kawasje-da wage-da. sosti-
紅と 筆 一本と 買わせた わけだ。 そし

te, kondo togasi-te kondo a· jo· futobande-
て, こんど (食紅を)融かして, こんど アァ ヨォ 一晩げ

no uci-ni kondo hositeaqta kondo N·na sjogu-
の うちに こんど 乾してあった こんど みんな 食

benko cuge-de jaqta wage-da, un, un, sono
紅コ つけて やった わけだ。 うん うん, その

tonari-no taęra-no <R un>-sjæ moçiqko-sa.
となりの 平の うん 餅ッコに

na·Nto asama-ni ogitaba-sjæ mamaNde-sjæ c+-
なあと 朝また 起きたら さながら 血

cudamidæ-ni naqteru wage-da, agagu naqte-na
が付いたみたいに なってる わけだ, 赤く なってなあ

<R honda.> na·Nto ore-no moçi-sa osorosine
そうだ。 なあと オレの 餅に おそろしい

mono cudedaqte mini egeba N·na maqka-ni naq-
もの ついてだって 見に 行くと, みんな 真赤に なっ

teru wage-da. nanno tonan-no karapojami-sa
てる わけだ。 何の, 隣の カラボヤミに
(怠け者)

dasite jareqte wage-de nasite kwaęeru mon-
呉れて やれって わけて, なんて 食われる もの

daqte tonari-no karatejami-sa moqte egeqte,
かとして 隣の 怠け者に 持って 行って

na·Nto ęçiniçi-ni nando-mo cūda moçi nanda-ga,
なあと 一日に 何度も ついた 餅 なのだが,

futari-mo sannin-mo site c#da moct, deroqto
 二人も 三人も して ついた 餅, デロリと

moraqte hitofuju agi-sita-dona. (笑)
 貰って 一冬 (食って) 厭き厭きしたとき。

③ 山ざ行ってマギきり

N soregara kon-do-sjæ ma. s̃iθeziro ko-site-daqte
 それから こんど 繁次郎 こうしていても

jazjaganæntegane jadodete hito jadowasje-de.
 だめだから 雇って いい 人 雇わせて

jaqta-do. sitaba kon-do, s̃iθeziro, cjo magi-
 やったと。 したら こんど 繁次郎, 今日 薪切

kiri-da-dæ. jama-sa eqte magi hora, jogama-wa
 りだよ 山へ 行って 薪, ほら, 四釜は

taganænantegane, kiqtekoeqte. jo-si-do (o)mo-
 焚かねばならぬから 切って来いってえ。 よーしと 思

te eta wage-sjæ. sita-ba kon-do, futa-gama
 って いた わけよ。 したら, こんど, 二釜

kiqte kon-do-sjæ o.furi-kesi-te nededa wage-da,
 切って こんど 大きな顔して 寝ていた わけだ,

jama-naga-de-na. sogode kon-do, eqte midaba-sjæ
 山中でな。 そこで, こんど, 行って 見たら,

futagama-jori kiqte ne wage-da. s̃iθeziro,
 二釜しか 切って ない わけだ。 繁次郎?

kore sjeba nandaqte futa-gama kiqtesjeba
 これ, すると, 何だって 二釜 切って

ne-de, jo-gama kiru hãzuni site-sjæ edanega-
 寝て! 四釜 切る 筈に して いたではないか

do. nani saberuqtega. koqc-i-no kaðe-no ho-sa
 と。 なに しゃべるのか。 こっちの 蔭の 方へ

kite mire-dæ. koqc-i-no ho-no kata-kogoc-i sjeba
 来て みる。 こっちの 方の 片木口, すると,

kiqta-andaqte na, koqci mide futa-gama areba,
切ったのだよ なあ, こっち みて 二釜 あれば,

koqci-no ho. mide-mo futa-gama areba, jo:gama-
こっちの 方 みても 二釜 あれば 四釜

daaqtado. sjebanda kanzjo-dadomona. kada-
なのだと。 そういえばなるほど そういふ勘定だものなあ。 片

kogoci dare kiqta-anda, ore kiqta-anda, sje-
木口 誰 切ったのだ, オレが 切ったのだ, する

ba sore jogama-ni naqte si:maqteru wageda.
と, それ 四釜に なって しまってる わけだ。

④ ^{わかじえ}若勢ぶり

sore-gara kondo si:beziro-dogo kondo wagazje-
それから こんど 繁次郎を 今度 <若い衆>

ni tanomo-ni eqta wage-da. egu toqte ema
に 頼みに 行った わけだ。 よく 取って 今

nanbo nanbo-ni tanomaenegaqtaba e. eqte, sita-
どれほどに 頼まれないかといったら, いい, いいって, そした

ba-sjæ ore-sjæ nan-demo si:godo-daba surusi-
ら オレは 何でも 仕事は するし,

sjæ wage-da.
わけだ。

sitaba kondo-sjæ oenojonda mono-sjæ nandemp-
したら, こんど オレのような 者, 何でも

sjæ kwannon-sama-no hidake-sjæ ore-dogo jas-
観音様の 日は オレを 休

masjede kereqte. kwannon-samaqtaqte ecinici-
ませて くれてえ。 観音様といっても 一日

bari nanne-do omote, ae ae e-dæ eqtakodone.
だがにしか ならないと 思って アエ アエ いいよ と言ったことよ。

si:beziro nanisruqteba cjo-wa eciban-no kwa-
繁次郎 なにするっていうと, 今日 は 一番の 観

Nnon-sama-daqte wage-dana. as+ta-ni nareba
音様だという わけだな。 明日に なると

mada-sjæ s+Deziro nanisurugeqteba cjo-wa
また 繁次郎 なにするかという と 今日

niban-no kwannon-sama-da, asa+te-ni nareba
二番の 観音様だ、 明後日に なると

cjo sanbanno kwannon-sama-da+te wage-da.
今日 三番の 観音様だという わけだ。

kondo-sjæ na+nto ta+ezu sanban aru wage-da,
こんど なんと 絶えず 三番 ある わけだ、

kwannon-sama-na. sje-ba cugi-ni-sjæ sanzju-
観音様が。 すると、 次に 三十

ni+ji-jori ore jas+nda obo+edo. ado-no miq-
日より オレ 休んだ 覚えが ないと。 あとの 三

ka sjeba nanto site kureru+ndado. so+ede
日、 すると、 なんと して くれるのだと。 それで

kondo ado-no miqka-buri-mo mada-sjæ to+neba
こんど あとの 三日ぶんも また 取らねば

naran+andadona. jaqpa sanzjusanban-no kannon-
ならないのだとよ。 やっぱり 三十三番の 観音

sama. so+ede kondo o+jagada-mo na+nmomageda-do.
様 それで こんど 親方も 何もみな 負けたと。

ec+nen-zju nesje-de kwasje-de sos+ite miqkad-
一年中 寝せて 食わせて そして 三日づ

zuc+ni sa+ari aru wage-da. so+ede s+Deziro-ni
つに 下がり ある わけだ。 それで 繁次郎に

kate totemo awanedona.
かかって とっても だれもだめだと。

【15】 昔 話

録音日時 1967年2月26日

録音場所 秋田県男鹿市脇本大倉
吉田運蔵氏宅

話し手

(略号)	(氏 名)	(性別)	(生 年)	(職業)	(居 住 歴)
N	吉田 ナツ	女	明治22年生	農業	脇本 だけ
U	吉田 運蔵	男	〃 16年生	〃	〃 (聞き手)
S	吉田 家主婦	女	40才くらい		〃 (〃)
K	菊地 正信	男		高校教諭	

① 松かさ三升で炊事 —— 嫁の資格試験 ——

解説：マツカサ(松毡)は方言で〔madz-w f-w ɔrɪ〕マツフングリ だがここでは共通語のマツカサでみえる。ムガンはオナゴがヨケエ居たタメニ ナンダラ嫁デモ選ブコトガデキタではじまる。ここではその嫁の能力試験で、マツカサ三升を与えてゴハンを炊かせ、オツゲ(お汁)をつくらせ、そしてユコ(湯)までわかさせようとするのである。三升くらいでマンマ オツゲから湯コまでとは大変と一つづつ——最後までマツカサがあるようにと——くべてゆくのの中以下の頭脳の主、マンマが煮えないうちにすでにマツカサがなくなってしまう。嫁入り資格十分と判定される上脳は果して如何なる方法を以て処置したか。

N mugasɪbanasɪ kádarogá .
昔 話 語ろうか。

aru mugasɪ ne-da wágesjæ . hj torimusuɔko
ある 昔に、 という わけよ。 ひとり息子が

jome morau-ne-da wágesja-na . na.Nto mododaba
嫁を 貰うことに、 というわけよなあ。 なんと 昔は

ema-jorɪ-sjæ onãɔ joge. ɛda tameni nandara
今より 女が たくさん いた ために どんな

jome-demo ɛran-de morau-ni ɛgata wágeda .
(いい) 嫁でも 選んで もらう { に よかった } わけだ。
{ ことが できた }

Nde-sjæ oreno ɛsa kuru jome-sjæ madzɪkasa
それで、 俺の 家へ 来る 嫁よ、 まつかさ(松毡)

saNzjo-ni mama-do odzʉge-do juko-do, so.
三升で 飯と お汁と お湯と そう

tagu-en-da-sjæ jome-de neba morawa-ne-do.
たくよな 嫁で なければ もらわないと、

soe-de kondo tadekanban sāðe-da wage-da.
それで 今度 立看板を 下げた わけだ。

so.ju-koqte, konda-sjæ, ore-midæna monozugi-da
そういうことで、 今度、 オレ(俺)みたいな 物好きな

monde aqta-be-sja, sore-daba ore eguqte kj-ta
もので あったんだろう、 それなら オレ 行くといって 来た

wage-da. mānzʉ-sjæ kanban-ni joqte kjta-do.
わけだ。 まず 看板に よって 来た(いう)。

sitara-sjæ, siken-si-te mireqte, madzʉkasa
それなら 試験して みろっというわけで 松かさを

saNzjo. āzʉge-de-sjæ manma taga-sje-de odzʉge
三升 預けて(与えて)、 飯を 炊かせて お汁を

nira-sje-de so-si-te-sjæ juqko-mo wagaʉ-anda
煮させて そうして お湯も わかすという

wage-da-na. sore degire-ba-sjæ, māndzʉ jo-me-
わけだな。 それが できれば、 まず 嫁

qko-ni moraude kodoni naqta wage-da. soe-de
に もらうという ことに なった わけだ。 それで

kondo ma. ta-ga-sje-da-ba, māndzʉ saesjo-ni
今度 まあ たかせたら、 まず 最初に

futaqçʉ miqçʉ futaqçʉ miqçʉqte māndzʉ-sjæ
二つ 三つ 二つ 三つとって まず

kūbe-de jaq-ta-ba-sjæ saNzjo-no jadzʉ-ni-sjæ
くべて やったら 三升の もの(松かぎ)で

manma jaqtoga-jori nidada-ne wage-da. soeNde
飯が やつとがより(やつとしか) 煮立たない わけだ。 それで、

māndzʉ sore ragudaę-de aqta-do-gaę. Nde, ni-
まず それ 落第で あったとよ。 それで、 二

banme-ni-sjæ kija hito-sjæ ore sitarasjæ
番目に 来た 人よ オレが それなら

jaqte miruqte mada kija hito eda wage-da.
やって みようといって 又 来た 人 い(居)た わけだ。

sitadomo mada madzuskasa sanzjo azuge-de-sjæ
だが、 また 松かさを 三升 預けて

sono manma taga-sje-de mida wage-sjæ. sogode
その 飯を たかして みた わけよ。 ところで

sono hitoqcudzucu-sjæ kibe-da-wage-da. hitoqcud
その 一つづつ くべたわけだ。 一つ

dzucu kibe-dara kondo-sjæ ore ha go.kagu
づつ くべたら 今度 オレは もう 合格

sunmondado omoqte-sjæ hitoqcudzucu kibe-da
するもんだと 思って 一つづつ くべた

wage-da. sogode sore-mo madasjæ manma nida
わけだ。 ところで それも また 飯が 煮立

da-ne-de ha ne-site simaqta wage-sjæ. nanto
たないで (松かさを)なくして しまった わけよ。 なんと

sitaqte jazjagane, mada sore-mo ragudae-da
しても 駄目だ、 また それも 落第という

wage-da. sore-gara-sjæ ekagen da hanegæri
わけだ。 それから いい加減な 跳ね返り(おてんば)娘が

mada kida wage-sjæ. ore sitara jaqte miruq
また 来た わけよ。 オレ、 それなら やって みようと

te sitara mada madzuskasa sanzjo andzuge-de
いって、そしたら また 松かさを 三升 預け

sjæ sikeN sasjeda wage-da. nanno kodone,
て 試験を させた わけだ。 なんの ことない

eginari boqkori sanzjo kibe-de soreni hi
いきなり ポッコリと 三升 くべて、 それに 火を

cuke-da wage-da. do-do-do nidaqte simata
つけた わけだ。 ドォードと 煮立って しまった

wagesjæ, sanzjo-no ma., hitokube-de. kondo
わけよ, その三升の 松かさが, その^{ひと}くべで。 今度

nibanme-ni kono kiwa-sa ko.sæ hanedeqtajadz
二番目に この 際へ このように 跳ねていったやつ
(手真似) (手真似)

konda adzube-de, sositaba-sjæ odzugeqko ni-
(松かさ)をこんど 集めて, そしたら お汁が 煮

daqta wage-da. odzugeqko nidaq-ta-ba jaqto
立った わけだ。 お汁が 煮立ったら ヤッと(威勢よく)

orosite, sono ogiqko-sa-sjæ cjaamako cjq-
おろして, その オキ(燗)へ 茶釜を おしつ

uke-da wage-da. sore-de manzjogu sita-dona.
けた わけだ。 それで 満足 したということだ。

n-te, anmari ke-cijaru-mo mada e. kodode
それで, あんまり ケチ(吝嗇)するのも また いい ことでは

ne-an-da wageda. sogo-sjæ adama-no mondae-
ないという わけだ。 そこはよ 頭の 問題

de-na. soe-de, sono hito mandzu sogo-no
でな。 それで, その 人(娘) まず その

e-sa jomeko-ni naqte osamaqta-do-jona hana-
家へ 嫁に なって おさまったという 話

si-da. sore-de toppi nparari.....
だ de... それで トッピンバラリ.....
で.....

② <やぐわん>と<めくされ>それに<しらみたがり>の話

解説: ちょっと上品めいた話ではないが、昔話の世界なら<めくされ><しらみたがり>などありふれたことでどこにもみられたし、自分たちにもあったもの。但し<やぐわん>だけは古今東西を通じて遍在する。この三人がナンボカユイ(痒)タッテ カガネッコ, ナンボ 涙デタタテ コシネッコ をしようと約束する。コシネッコはコスラネッコである。ヤグワンとシラミタガリはかゆくて死ぬほど、めくされはメクソと涙でこれもそれほど、さて三人この難関をいかに切りぬけたかというのがこの昔話のネライ。

N aru mugasi-ne tomodaci-qko sannin asunda
ある 昔に 友達 三人 遊んだ

wage-sjæ. sono dogi-sjæ futori jagwan-de,
わけよ。 その 時 ひとりは ヤガン(禿頭)で、
(薬師頭)

futori sirami-tagari-de, futori mekusare-de
ひとりは シラミタガリで、 ひとりは メクサレで
(虱集) (目腐)

aqta-dogaë sannin-dzucu asundeda wage-da.
あったとよ。 三人いっしょに 遊んでいた わけだ。

soregara kondo-sjæ futari (言いなおして) sannin
それがら 今度 二人 三人

asundede-sjæ eqsjokeme kædo-naga aruete-daba,
遊んで 一所懸命に 街道なかを 歩いていたら、

ja ja cjo-sjæ nanbo kætaqte-kaganeqko jaro-
やあ やあ 今日よ どんなに カユクテモカガネエツコ やろ
(痒)

ga(qte). aë aë, sitara-sjæ omæ mada nanbo
うか(って)。 うん、うん、 そしたら お前 また どんなに

managu-sa namida de-de kitabatate kosineqko
マナコ(眼)に 涙が 出て 来たとして コスラネツコ

jaruga(qte). sje-ba ore-mo jagwan kaganeqte
やるが(って)。 そしたら オレも ヤグワン カガネエって

sannin-site kime-da wage-da. soko-de kondo
三人で(このように) きめた わけだ。 そこで 今度

nanmo-kanmo sirami-tagari kæku-te sinu-enda
無精に シラミタガリは 痒くて 死ぬような

wage-sjæ. anmari agirede konda-sjæ ko-ë (言い
わけよ。 あまりの ことに {あきれて
どうしようもなく} 今度 (ちょうど)

なおして) ë: anbaë-no kawaqko-enda dogo-sa eqta
いい ぐあいの 川のような ところへ 行った

dogi kamo eqpa ton-de ki-ta wage-da. oja!
とき 鴨 一羽 飛んで 来た わけだ。 オヤ

oja! oja! oja! aqko-sa kamo eqpa ton-de
オヤ オヤ オヤ、 あそこへ 鴨 一羽 飛んで

内
十
五

ki-ta-daja . ano kamo, gozjo gozjo gozjo go-
来たよ。 あの 鴨、 ゴジョ ゴジョ ゴジョ ゴ

zjo gozjo gozjoqte, na^Nmo-ka^Nmo gozjo gozjo
ジョ ゴジョ ゴジョって、 ただもう ゴジョ ゴジョ

gozjo qte hiqsi-de kæde s+maqta wage-da.
ゴジョ って 必死で かいて しまった わけだ。

soqde sirami-tagari kæ dogo minna kaq-de
それで シラミタガリは 痒い ところを すっかり 掻いて

simaqta wage-sjæ . sogode kondo-sjæ jagwan da
しまった わけよ。 そこで 今度 ヤグワン の

wage-sjæ . s+itara, ore-mo jaro-ga-do omote,
わけよ。 そしたら オレも やろうかと 思って、
俺

konda sono dogi ko:site gwandzuri cukame-ba
こんど、 その 時 こうして グワンヅリ つかめば
(手真似)

ęgaqtadeni, adama gwandzuri cukame-ba ęgaqta
いかったのに、 頭を グワンヅリと つかめば いかった

deniqte ko: jaqta wage-da . nanbo-gæri-mo
のにあって こう やった わけだ。 何遍も
(手真似)

so jaqtara sore-mo mada jagwan kande-sæ
そう やったら、 それも また ヤグワンを 掻いて

manzjogu-s+ta wage-da . so regara mekusare
満足した わけだ。 それなら、 メクサレは、

konda-sjæ nanto surw, ore-mo mage-de erare-
こんど、 何と する、 オレも 負けては いられ

næ-do omote konda kandaeda wage-da . sono
ないと 思って こんど 考えた わけだ。 その

dogi teqpo-demo are-ba ęgaqta-domo-na, doqto
とき 鉄砲でも あれば よかったどもなも、 ドット

doqto udeba ęgaqtani, { R. 低声で, managu kosurw-
ドット 打てば よかったのに それでマナグを こする

ac+ sono udz+ni mekusodo deroqto odosi-te,
のだ > その うちに 目糞 デロッと(すっかり) おとして

(笑大きくこのところ不分明) sorede saNnin-nāDara kondō-
(しまったわけだ)。 それで 三人ながら (全部) こんど

sjæ kæ dogo-mo kæ-da-si, suqkari degi-de-sjæ
痒い ところも 搔いたし、 すっかり やってしまって

manzjogu sitadogaę.
満足 したとよ。

③ 狐とむじなとを化かした話

(1967年9月3日 臨地検討)

解説：詳しくいえば<博勞が狐とむじなとをうまくばかして大もうけた話>である。よく流布されている話で、話そのものは別に珍しいものではない。カラダを撫でて、コゴノ アダリ アンマリ 肉 タラネデアッテ 撫デレバ[sjæ マダ コンダ 好エ アンバエニ ナルワゲダ など なかなか話者の巧みさを物語っている。

N dzɨqɕja damaqtere-jo.
爺チヤ だまってれよ。

U oę.
オエ, (うん)。

N kiçune-do mūzina-do-sjæ ningēn-ni damagasa-
狐と むじなと 人間に だまさ

reda-do. kiçune-do mūzina-do, are-sjæ, aru
れたと。 狐と むじなと あれ, ある

baguro jama-sa-sjæ koęe wagede kidaba,
博勞 山へ こういうように(な) わけて 聞いたら,

kiçune-do mūzina-do kondō hanasɨ site so-
狐と むじなと こんど 話 して 相

dan site-da wage-da. nanto musɨ. omæ asɨta
談 していた わけだ。 なんと ムジナよ, お前 明日

uma-ni naredeja. ore dogo sogo-no soę saga-
馬に なれよ。 オレ どこ そのの それ 酒

ja-ni nanbo tagæ-temo ę: uma-daba kaude
屋に どれほど 高くても よい 馬なら 買うという

hanasidaN tegane, temæN-dogo uqte-sjæ ore
話だから, お前(のどこ)を 売って オレ

zjeni mo-gede kite futarisite wgerajaqte
銭 儲けて 来て 二人して 分けろよと

so-daN-siteda wageda. sitaba konda-sjæ kore-
相談していた わけた。 そしたら こんどは これ

hæ e-kodo kida-do asama-ni nan nandogi keba
は よいこと 聞いたと, 朝に 何時に 来いば

e, sitaba-sjæ kicane-dosa junisæ asama-ne
いい (という)したら 狐に 言うに 朝まに

hajo-ne hajægu ke-jaqte ko- e qta wage-da.
早うに 早く 来いよって こう 言った わけた。

jo-si-do omoqte kondo-sjæ baguro kondo cægi-
よーしと 思っ、て こんど 博勞 こんど 次

no asama-ni kondo-sjæ hajoogi-ni hajægu
の 朝まに こんど 早起きに 早く

maganaqte gōzja kite fukāgasa kābute kon-
身支度をして 莫塵を 着て 深笠を 冠って こん

da-sjæ degagede e qta wage-da.
ど 出掛けて 行った わけた。

musi: edagæ. oq haeneganaja. aja hajægu
ムーよ。 いたかね。 おっ、早いねか。 うん、 早く

eganeba nāne, abeja-sitara-sjæ musi. bageda
行かなければ ならない, さあ行こうや。 したら むじなは 化けた

wage-da. nanto moqto jogu bagere-dæ. kogo-no
わけた。 なんと もっと よく 化けるよ。 この

adari anmari nigu taranedæqte nadere-ba-sjæ
あたり あんまり 肉が 足りないよといって 撫でれば

mada konda e. anba-ni naru wage-da.
また こんどは いい 具合に なる わけた。

sa. konda siqkari siqkari nāndede konda-sjæ,
さあ, こんどは しっかり しっかり 撫でて こんど

na·Nto konda e· anbae-ni naqta-dæ ego-dæ.
なんと こんど いい 場合に なったよ 行こうよ。

temodo-ne sagaja-sa eqte kasi unte kuqtara
酒屋へ 行って 糟を たくさん 食ったら

niðede ke·joqte. o· o·qte. sosite keba zjeni
逃げて 来いよってえ。 おー おーってえ。 そして 来いば 銭

wageranaqte ju·dajaç# ãN Nda Nda zjeni wage-
分けろうよなあって 言ったのに対して うんうん そうだそうだ 銭 分け

ruqte, eqta wageda.
ると 言った わけだ。

sitaba kondo-sjæ ma e· anbaeni bageda. sa·
そしたら こんど まあ いい あんばいに 化けた。 さあ、

ore noqte egudæqte ke-qc# buqtadæte, kondo-
オレ 乗って 行くよって お尻を ぶったたいて こんど

sjæ z#qto funagosi-no sagajamidæna (dogo-sa)
ずーっと 船越の 酒屋みたいな (所へ)

noqte eqta wage-sjæ. na·nto mireba miruhodo-
乗って 行った わけよ。 なんと 見れば 見るほど

sjæ e·fæ ãuma-da wage-dana. kondo-sjæ sono
いい 馬だ わけだな。 こんど、 その

koro-no kaneme-dara-sjæ nanboganæ uqtada-ga
頃の 金目なら どれくらいに 売ったのか

wagarane-domo, o·gada e· ne-ni uqta wage-sjæ.
分らないけれど、 だいたい よい 値に 売った わけさ。

sosite konda e-sa kite sirane furisite, sono
そして こんどは 家へ 来て 知らない フリして、 その

ãuma eqpigi tãnda mo·ge-de-gaæ sono baguro-sjæ
馬 一匹 ただ 儲けてねえ、 その 博勞

jorokondeda wage-da. sokode kondo, sono na-
喜んでいた わけだ。 そこで こんど、 その 何

nisite, müzina kondo-sjæ e· kagen kas# kute
して、 むじな こんど いい かげんに 糟 食って

ũNtagu naqta-do. maja-gara, koede, niðede
いやに なったと。 馬小屋から、 越えて、 逃げて

kita wage-da. kisi. kisi. zjēN wagero-dæqte
来た わけだ。 キーよ、 キーよ。 銭 分けろうよって

kita. kono cikisjo Nða ore-dosa uso māðejã-
来た。 この 畜生！ 貴様 オレに ウソ(嘘)つきや

ðaqte futo kesa mugæne eqtaba, soete hogo-sa
がって、 ひとが けさ 迎えに 行ったら そして 不明よそへ
(自分をいう) (.....)

kagurede enede ema sũðuni dæN nosimo jogu
隠れて いないで、 今 すぐに 銭 (

degida-dote futari site kondo keN-kwa amaqta-
) 二人 で こんど ケンカを はじめた

dona. nanmo kaNmo, siræ deba kuræqte kumiuci
と。 なにも かもすべて、 白いと いえば 黒いと言って、 組打ちを

jaqta wa-ge-da. sitaba sono baguro konda
やった わけだ。 そしたら その 博勞 こんどは

zjēN unto mo-gede simate kondo kiçtæne-do
銭 うんと 儲けて しまつて こんど 狐と

mũzina (未完のままテープ切れにて無録音)
むじな

④ 無実の罪に泣く如来さま

解説：和尚さんがこっそりかくして賞味していた<烏賊の塩辛>小僧が発見留守中 deroqto と食ってその罪を、あろうことか、如来様に塗りつけたという話。つまり塩辛を御堂の如来さんに塗りたくっておいたのである。さては和尚に打たれて如来さん<食わん><食わん><それ見ろ小僧クワンではないか>小僧なにくそとこんどは如来さんをそっくり釜へ、ついに如来<クタクタ><それ御覧じろ和尚さん云々>となる。

N (mukasi-no oqsan māNçt ma-sjæ), namakusamonon
(昔の 和尚さん まず まあ), 生臭物
なまぐさぶつ

kuēba-sjæ nāmakusa-bo-zuqte ewareruqte-sjæ
食えば 生臭坊頭と 言われるといて、

kōbocja-ni kwasenede oqsan-bari kuqta monda
小坊頭に 食わせないで 和尚さんばかり 食って いた

wage-da, mugasi-ne-na. soę kondosjæ ęga-no-
わけだ、 昔になあ。 それ、 こんど、 烏賊の

sjogara kame-sa kagusite sosite-sjæ soqte
塩辛を 麴に 隠して、 そしてよ、 そして

zibun-de kondoo gjo-ni dehata wage-da. sita
自分で こんど お経に 外出した わけだ。 そうした

ori-ni kondoo kobo. je-neę ede sono sadasi-te
折に、 こんど 小坊が 家に いて、 その、 探して

aqte sono ęga-no-sjogara kame-ni futoęu de-
歩いて、 その 烏賊の塩辛を 麴に ひとつ デ

roqto kutesimata wage-da. soęde kondoo sono
ロリと 食ってしまった わけだ。 それで、 こんど その

oqsan kitesjæ sono ęga-no-sjogara kudo omote
和尚さん (帰って) 来て その 烏賊の塩辛を 食おうと 思って

midaba ne wage-da, namo. soęgara sono oqsan
見たら、 ない わけだ、 すっかり。 それから その 和尚さん

ju-ni, kozo. kono ęga-no-sjogara dare kuqta-
言うには、 「小僧! この 烏賊の塩辛、 だれが 食った」

teba-sjæ kuqta kuqta no-gori-sjæ njoræsan-sa
と言ったら、 (食った) 食った のこりを 如来さんへ

deroqto noqte oęda wage-da. sogode, njoræsan
デロリと 塗って おいた わけだ。 そこで、 「如来さんが

kuqtaęntaqte so. ęqta wage-da. njoræsan sje-
食ったようだ」と そう 言った わけだ。 「如来さんが、 それな

ba sjogara kuqte ju. kodo aruga. uso-dara
ら、 塩辛を 食って いう こと あるか。 うそなら
(うそだと思うなら)

midekere, osjosan. njoræsan mama nde kuęicju-
「みてくれ 和尚さん」 (みたら) 如来さん すっかり 口中

sjæ sjogara nodagute eda-do. uso-dara mini
塩辛を 塗りたくって いたと。 うそなら 見に

ande kereqte, eqte midaba na-ruhodo njoræsan-
一緒に来て くれていので 行って みたら なるほど 如来さん

sa maroqkiri sjogara nodaguteda wageda.
へ すっかり 塩辛を 塗りたくっていた わけだ。

soede kondo njoræsan-sjæ hontonimo-sjæ kuqta-
それで こんど 如来さんが ほんとに (塩辛を)食っ

ga kwanegaqte kondo-sjæ kōnbo-do oqsan-do
たか 食わないかといって こんど 小坊と 和尚さんと、

kondo kenkwa-ni naqta wage-da. soede kondo
こんど、 ケンカに なった わけだ。 それで、 こんど、

masaga-ri moqte-sjæ njoræsan-dogo kondo tada-
マサカリを 持って 如来さんを こんど 叩い
た

da-do. konda-ni-sjæ kuqte kuç+sa cæke-de ede
たと。 このように 食って 口へ つけて いて
く

nasite-sjæ kwaneqte sono Nna kodo arumon-dado
何で 食わない そんなこと あるものかと

mote tadadaba-sjæ njoræsan kwan kwanaqte nada
思っ て 叩いたら 如来さん くわん くわんと

naqta wage-da. sono njoræsan masagarimoqte
泣いた わけだ。 その 如来さん マサカリで
(鳴いた)

tadadaba kwan kwanaqte, so-ra kwaneqte juqta
叩いたら クワン クワンと、 そーら 食わんって 言った、

hora, kōnzo. Nŋa kuqtaaçuni maçigae neqte.
ほら 小僧 貴様 食ったのに ま違い ないってえ。

josi, sitara-sjæ dogo-mademo so. jaqte kuç+
よし、 それなら、 どこまでも そう して 口
く

oçinegoqtaba njoraæsan-dogo nide si-mauqte.
落ちないことなら 如来さんを 煮て しまうってえ。

kama-sa o.gida kama-sa kondo-sjæ hi tade,
釜へ 大きな 釜へ こんど 火 焚いて

njoraæsan sjede nida wage-da. nidate kita-ba
如来さんを 入れて 煮た わけだ。 煮立って 来たら

kuta kuta kuta kuta kuta kuta kutaqte nada
クタ クタ クタ クタ クタ クタ クタって 鳴った

wage-da. soede, njoræsan-sjæ osjosan kore
わけだ。 それで、 如来さん、 和尚さん これ

mire-do. kondō kuçi oçidaga-na, kuta kuta
みろと。 こんど □ 落ちたかな、 食夕 食夕
ク

kuta kutaqte ju-do. so. ju. wagede kondō
食夕 食夕って 言うぞ。 そう いう わけで こんど

kobo-ni kaqte oqsan mageda-do.
(子)坊に かかって 和尚さん 負けたと。
小

⑤ ダンゴがドンになった話コ

解説：流布広い昔話。

ドンと小川を飛びこえたら忘れじと連呼し来りしダンゴがドンとなり、ついに夫婦ゲンクワとなる。馬鹿聲じれったさに嫁をゴワンと、嫁立腹ヒトノ アダマサ ダンゴミテダダコブツグテと
なって、ダンゴが馬鹿殿の頭によく登場となる。

N bagamugo ede aqta wage-da-na.
馬鹿聲が いた わけだ。

sogode, kondō-sjæ jome moraqtaba, jome-no
そこで、 こんど 嫁を もらったら 嫁の

je-sa-sjæ hīḍandogi kitaba, kondō asineḡ jaq-
家へ、 彼岸の時が 来たら、 こんど 遊びに やっ

tado, sono mugo-dogo-na.
たと、 その 聲をな。

S site maḡneḡ sjabenegaqta?
して、 (この話)前に 話さなかった?

N sjabenegaqta-naja
話さなかったよなあ。

U sjabere sjabere
シャベレ シャベレ (小さく低い声)

N soregara kondo sogo-no je-no mono konda
 それから こんど その 家の 者 こんど

danŋo kwasjeda wageda, hiŋanda tameni-na. sa,
 団子を 食わせた わけだ, 彼岸だのてな。 さあ,

sono danŋo nanboga ūmækute kutandaga kuqta-
 その 団子 どんなにか おいしく 食ったものか, 食っ

kodo-mo ne, hanasi-mo siraneŋnda danŋo-de
 たことも ない, 話にも 聞いたことのないような 団子で

ūmægæqtaN-cja kondo kore ūmæ mondana kore
 とても良かった こんど これ うまい もんだなあ これ

nanto ju. mondaqtaba-sjæ danŋo-dagte. omæ-no
 なんと いう もんだといたら 団子だってえ。 お前の

je-sa eqte ore-no dare-sore-ni kosŋrasje-de
 家へ 行って オレの だれそれに こしらえさせて
 (嫁入った娘)

kueqte, so. eqta wage-da. konda sono danŋo,
 食いつて そう 言った わけだ。 こんど その 団子,

wasuretagu ne-do (o)mote-sjæ konda-sjæ je-sa
 忘れたくは ないと 思って, こんどは 家へ

kuru-naŋara danŋo danŋo danŋo danŋoqte, do-
 来ながら 団子 団子 団子 団子って ど

go-mademo-sjæ danŋo danŋoqte kita wage-da.
 こまでも 団子 団子って 来た わけだ。

sjegi eqpo aqta wage-da. nanto madagænækute
 小川 一本 あった わけだ。 なんと またがれなくて

donto madaŋda wage-da. sa. kondo danŋo wasu-
 ドンと またいだ わけだ。 さあ, こんど 団子 忘

rede simate don donqte kita wage-da. sokode
 れて しまって ドン ドンって 来た わけだ。 そこで,

kondo-sjæ je-sa kite-sjæ abadon kosjo-de kwa-
 こんど 家へ 来て アバドン こさえて 食
 (主婦・自分の嫁)

sjereqte so. eqta wage-da. tede nanto sjeba
 わせろって, そう 言った わけだ。 テデ なんと すれば
 (主人, 自分の夫)

don te nan no koqtaqte. don kosjode kwasjere,
(いい)ドンって なんの こったってえ。 ドン こさえて 食わせる。

ema-sjæ Nŋa-no je-sa eqte don kuqte kitaba
今 お前の 家へ 行って ドン 食って 来たら

cito-baga-no umæ mondene, don kwasjre(qtara)
ちっとやそっこの うまい もんではない、 ドン 食わせろっていったら

donqte ora siraneqte, nanto don sirane kodo
ドン 知らないってえ、 なんと ドン 知らない こと

aru mondaga, je-sa eqte kosje-de morate keq-
ある ものかと、 家さ 行って こさえて もらって 食え

te eqta monda monosjæ sirane-de kodo aru
って 言った もんだ もの、 知らないという こと ある

mondaga-to ju-monde kondo kenkwa-ni naqta
もんかど いうので、 こんど 喧嘩に なった

wage-da. aba-dogo kondo sitadagani kondo-sjæ
わけだ。 アバを こんど したたかに こんど

tadade simata wage-da, adama-sa. a:q, edæ,
叩いて しまった わけだ、 頭を。 あっ、 いたい

edæ, kono tede-jo adama-sa danŋo hodo-no kōbu
いたい この テデよ 頭に 団子 ほどの 瘤

c#-da. aba, sono danŋo-jaq.
付いた。 アバ! その 団子よ。

⑥ 風雅を解するジッチャとバンバ

解説：バンバ 髪なく、ジッチャ 鼻なし。＜似たもの夫婦＞でなかなか円満。さすがにバンバは女性、髪なきあたりは掛手拭。ところがさる日のさる折手拭kappariと落ちる。ジッチャ感に堪えず一首、後二句 ヌイデミタレバ グルノカメ、カメはつると、はげ頭。バンバまた負けてはならじと＜花＞に＜鼻＞をあしらい、ハナ ナキトキハ サビシカルラムと詠んだわけ。

N aru mugasi-ni dziqcja-do baba-do ede aqtadegaq.
ある 昔に 爺と 婆 いて あったと。

soe-de konda-sjæ baba-do-ni kami oede negaq-
それで こんど 婆さんには 髪が 生えて なかつた

ta wage-da. dziqcja-do-ni hana negaqta wage-
た わけだ。 爺さんには 鼻が なかつた わけ

dana. soede fu-fu-ni naqtədado. soede konda-
だなぁ。 それで 夫婦に なっていたと。 それで こんど

sjæ baba jama-sa eqte konda-sjæ nimo cu sjoq-
婆が 山へ 行って こんど 荷物 背負

te kita wage-sjæ. nanto-sjæ eqsjokeme aqte
って 来た わけよ。 なんと 一所懸命 歩いて

kita-ba kowakute konda-sjæ doqsari orosite
来たら 疲れはてて ドサリと 降ろして

ko-site-sjæ toqkuragæqte kojasi-ta-ba kami-no
こうして ひっくり返って このようにしたら 髪の

ne-sæ sono tenoθoεqko kqpara-do toreda wage-
ない その 手拭 カッパと 取れた わけ

da. sogode, dziqcja ju-ni-na na-nto kondo-sjæ
だ。 そこで、 爺さん 言うに なぁんと こんど

nantoga juεba ε-ndaga ade ne wage-da mida
なんとが いえば いいのか 的が ない わけだ、 みた

kodo negaqtaNte, soregara
こと なかつたので、 それから

s̄ba-ni kagedaru kagetonθεqte
シバに かけたる 掛手拭

wage-dana
わけだなぁ。

noede midareba guru-no kameqte
脱いで みたれば グルの カメって

ko. eqta wage-da. sita-ba, sono baba mada
こう いった わけだ。 そしたら、 その 婆 また

magedereba e-domo, ore midæna mon-de
負けていれば いいけれど、 オレ みたいな もんで、

haru-wa hana, naçu-wa momizi agi-wa ki-
 春は 花 夏は 紅葉 秋は 菊

guqte wage-da
 って わけだ。

hana nagi togi-wa sabisikaruranqte
 花 無き 時は さびしかるらんってよ

wage-da. sore-de, doçci-mo doçi-da wageda.
 わけだ。 それで どちらも どちらだという わけだ。

sorede manzjogu sitena. iqsjo owaqtadona.
 それで 満足 して 一生 終わったとよ。

topi (N parari)
 トッピ (ンバラリ)

⑦ 餅粉の整鼻術

解説：鼻の低いピッチャが餅粉を練っていやたかだかに鼻を整え揚々と寝入りをする。鼻の高くなった男ぶりをハナハナハナホドエーオドゴとっているのがおもしろい。ハナハダ(甚)にハナ(鼻)とホド(程)とを懸けているようである。床入りとなって思わざる伏敵出現、一晚勝負で豪華なハナハナハナホドヨイそれも見るかげもなく退治されたという話である。

N (hana-no) tagæ odogo-buri-no e. jaçu hosiqte
 (鼻の) 高い 男振りの いい 人が 欲しいとて、

kono fæto egugoqtaba ha zibuN-de go.kagu-da
 この 人 行くなら ハァ 自分で 合格で

aqta. soede kondo jaç mançu tade fuda-ni jote
 あった。 それで こんど やれ まず 立札に よって

mairimasitaqte mançu eqtan tegae. eqtaba
 参りましたって ます 行ったとよ 行ったら

kondo-sjæ omæ-daba hana fugukute egeneqte
 こんど お前は 鼻 低くて よくないとて

mançu soe ragudaç-sita wage-da.
 まず それ 落第した わけだ。

sore-gara mada c̃i-ni etqemo mada omæ-hana-
それなら また 次ぎに 行っても また お前の鼻

daba midagunakute egeŋqte ju. wage-da. mada
は 見るるしくて いけないと いう わけだ。 また

c̃i-ni konda-sjæ nan-to sitara eŋderoga-do
次ぎに こんどは なんと したら いいだろうかと

omote kond-sjæ e. mançu eqsjokenme ko hadade
思って こんど いい ます 一所懸命 粉を はたいて

konda-sjæ komoçi kosjede e. anbæ-ni site kon-
こんどは 粉餅 こしらえて よい具合に して こん

da hana-sa-sjæ ko-site kire.-ni noqte-sjæ ko.-
どは 鼻へ こうして きれいに 塗って こう

site hanako kosjede eqta wage-da. sosite-sjæ
して 鼻ッコ こさえて 行った わけだ。 そして、

kanban-ni joqte maerimasidado. oç maçt-sjæ
看板に よって 参りましたと。 おい ます

kono hito-dara go.kagu sanega-do omote c̃re-
この 人なら 合格 しないかと 思って 連れ

de eq-ta wage-da. nan-to midadogo næ hanaha-
て 行った わけだ。 なんと 見たことも ない ハナハ
(鼻基ダをおも

nahanahodo e. odogoda wage-da. nanmo kamo
ナハナホド いい 男だ わけだ。 なんも かんも文句なしに
しろく言った?)

hana-daba kire-ni-sjæ nanto cjan-to sita uqte
鼻は きれいに なんと ちゃあんと した 頗る

e. odogoda wage-da. mamande anda midæ-da.
いい 男だ わけだ。 (それは)まるで 貴方 みたいな

hitodaqtaŋtegaç. sore-de kondo-sjæ kore-daba
人であったとよ。 それで こんど これなら

e. qte kondo hanahana-hodo e. mondagara kore-
いいって こんど ハナハナホド いい もんだから これ

ha e. odogo-dado omote morata-wage-da. soçde
ハァ いい 男だど 思って 貰ったわけだ。 それで

kondo gosju.gi site eqantegae. etaba e.nda-
こんど 御祝儀 して 行ったとよ。 行ったら それは

tate konda-sjæ neda wage-da. sogo-no ene
いいが、 こんどは 寝た わけだ。 その 家に

nanbogahodo nezumi eda mondandaga futo-ba[~]de-
どれほどか 鼠が いた もんだやら (たつた)一晩

sjobu-de sono hana ta[~]zi-site simaqtadona.
勝負で その 鼻を 退治して しまったとな。

jaqpari bicja-no modo-no biqcja-de aqtado.
やっぱり ビッチャの もとの ビッチャで あったと。
(鼻低)

(笑)

K modo-no biqcja
もとの ビッチャ

N modo-no biqcja-de aqta wage-da-na. hanahana-
もとの ビッチャで あった わけだな。 ハナハナ

hanahodo e. odogode aqta-domo, kondo nezumi-
ハナホド いい 男で あったけど、 こんど 鼠

ni kaqte..... ka[~]zirarede
に かかって かじられて

⑧ 米ぶぐと粟ぶぐ

解説：ゴギリは<後家入り>で後妻のことである。

後妻のママコイジメの話で、コメブグは前妻の子でアワブグは連れ子。途中で話者コメブグとアワブグとをとりちがえたところがある。子供のカクレンボに先妻の子をヌガの中に、わが子をコメの中にかくしたが、ヌカはかるくふわやかでコメブグは生き、コメだと安心して隠したアワブグは重さに息もできず冷たくなっておったでトッピンバラリとなる。

(注) 上記<ヌカ>は<糲殻>である。

N gogiri, gogiri so.-sjæ mugas[~]-ne arutogoro-ne
(後家入) 後妻、 そう 昔に あるところに
後添

gogiri moraqta wage-sjæ. saesjo-no siNda
後妻 貰った わけよ。 最初の 死んだ

futo-no ko-wa-sjæ komebugu-doju. onãdo-warasi
人の 子は 米ブクという 女子童

eda-dosa. konda-sjæ gogiri mada-sjæ awabugu-
いたとさ。 こんど 後妻 また 粟ブクと

do ju-ko cade jomeN naqte kita wage-da. sore-
と いう子 連れて 嫁に なって 来た わけだ。 それ

de-sjæ naganaga kondo sono gogiri-sjæ sono
で なかなか こんど その 後妻よ、 その

komebu-dogo nigusite sinueNda wage-sjæ.
米ブクを 憎くて 死ぬような わけよ。
(死ぬほどにくいの意)

sjeba ano agi-ni naqta-ba-sjæ kuri furou-ni
すると、 あの 秋に なったら 粟を 拾うのに

futari-dzuc# jaqtaba-sjæ mãNç# komebugu-fugu-
二人一緒に やったら まず 米ブクの袋

ro-no keqcasa-sjæ ana agede, awabugo awabugu-
の 尻に 穴を あけて、 粟ブゴ 粟ブグ

fuguro-daba-sjæ biqciri noqtandawage-da.
の袋は ビッチリ 縫ったわけだ。

soe-de-sjæ komebugu nanbo eqsjokenme furoqta-
それで、 米ブグ いくら 一生懸命 拾って

tate tamara-næ wage-da. sono siri-jac#-sjæ
も たまらない わけだ。 その うしろの
(袋)

komebugu-aqcja-daba tamaru wage-da. <K awa-
米ブグの のは たまる わけだ。 <K 粟
(粟ブグの誤)(袋) <米ブク>

bugu. > sjeba-sjæ kondo nantomo kantomo je-sa
ブグ。 > すると こんど 何とも かんとも 家に
でなく<粟ブク>だと誤を正した

egeba kondo-sjæ sono o jagada-sa-sjæ sagi-no
行けば こんど その 親方へ 先(妻)の

ko-dogo mãç# dohe-dado, nanto kuri-mo furoqte
子のことを まず ドへだと、 なんと 粟も 拾って
<あほう>

kene-de, awabugu-daba-sjæ eqpæ furoqte kite
くることができず、粟ブクなら いっぱい 拾って 来て、

komebugu futoqca-mo furoqte kone-do. kondara
米ブク 一つも 拾って 来ないと。 こんな

ko-ne eqte, maeniçi--no enimānçu-ma-sjæ kusa-
子に 言って 毎日の 様にますまあ 鎖

ricagedeedan tegae. sogode, kondo, aru dogi,
つけて(いじめて)いたと。 そこで こんど ある とき

ojagada jotasi--ni eqte enedogi--sæ (言いなおして→)
親方 用足しに 行って いない時 (隠れんぼ)

jaru, kagurenbo jareqte kondo juęçge-da wa-
やる) 隠れんぼ やれてゑ こんど 言い付けた わ

ge-da. sositara ore konda omægada-dogo kagu-
けた。 そしたら オレ こんどは お前らを かく

site misjeruqte. sosite kondo ɔɔako-dogo
して みせるってゑ。 そして こんど 自分の子を

kondo awabudogo kondo kome-no nagasa kagus+-
こんど 粟ブクを こんど 米の 中へ かくし

ta wage-da. sore-gara kondo komebugu-dogo
た わけた。 それから こんど 米ブクを

noga-no nagasa kagusiteta wage-da. nanbo
籾殻の 中へ 隠していた わけた。 いくら

daqte-sjæ sono micukeraene wage-dana, Nna
たっても その 見付けられない わけだなあ、 みんな

kagurenbo jaqte sãdasini aqtatate micukera-
隠れんぼ やって 探しに 歩いても 見付から

renæ wage-da. sitaba simse-ni naqte kondo-sjæ
ない わけた。 したら、 しまいに なって こんど

nani-siro ɔɔako kome-no naga-sa haqte hede
何しろ 自分の子 米の 中に 入って 冷えて

simaqte onbodæaçu-de sɔɔdeda wage-da. noga-
しまつて 重たいのて 死んでいた わけた。 籾殻

no naga-sa haqta ko konDo egideda wage-da.
の 中に 入った 子 こんど 生きていた わけだ。

soe, sore, ɖɖa kãnzjo-daba mãndzɹ mädzɹ kome-
それ, それ, 自分の 考えだと まず まず 米

no naga-sa sje-de ogeba kome kuqte egideru-
の 中へ 入れて おけば 米を 食って 生きている

do omote sosite ɛda wage-sjæ, na. kome kuqte
と 思って そうし. いた わけよ, なあ. 米を 食って

egideru-do omoqtedajaçɹ-ɖa-sjæ sjede sɪN-de,
生きていると 思っていたのが 冷えて 死んで,

noga-naga-ni ɛda jaçɹ-wa-sjæ karokesɪ, nogisɪ,
籾殻の中に いた のわ 軽いし, 温いし,

sorede egideda wage-da. Nde, konzjo wari ko-
それで 生きていた わけだ. それで, 根性の 悪い こ

do sjeba zibunno ko zibuN-de korosite sosɪ-
とを すれば 自分の 子を 自分で 殺して そうし

te ɛnegunanne wage-sɪ, na., so. ju. hanasɪ-
て いなくならねばならぬ わけよ, なあ. そう いう 話

nanda.
なんだ。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町